

# 大崎學報總目錄

自創刊  
至一五八  
号号

双榎学報 創刊号 明治三六(一九〇三)年三月

撰折論について

日本国の祖先と法華經

宗教心に就て

日宗教理発展史一斑

唯物論を排す

日宗教育の沿革概要

清澄山宗旨考

三十年來の記憶

彙報(同窓会沿革・同窓会規則・会員氏名録他)

付録 日宗著述目錄

大崎学報 創刊号 明治三七(一九〇四)年一二月

薩庵に與ふる書

四条抄の一節を講ず

青年僧侶の態度如何

支那における仏教傳來初期漸次發達の略史

神秘哲学とは何ぞや

聖祖伝(一)

宗教と宗教家

富岳を歎美する声

信仰と智識

月下の感

読種々御振舞抄

先ず聖祖を研究せよ(聖徳に同化せよ)

信念の修養

短檠録

鎌倉紀行

台当異目抄(清水龍山翻刻)

当家本尊義(一)(清水龍山翻刻)

妙宗綱要(一)(清水龍山翻刻)

顕底抄見聞 上(清水龍山翻刻)

本宗教義一斑

第二号 明治三八(一九〇五)年六月

本妙和尚法語(一)

天台華嚴と密教との關係

聖祖伝(二)

日宗教育の沿革概要

日蓮上人の人格(一)

世界統一の予言

雨の函嶺

陣中に於ける宗教的実験

海と日蓮

鎌倉紀行(ツツキ)

水村 遵祥

浅井 要麟

高田 恵忍

二宮 東一

吉田 素恩

日 朝

観如院 日透

桓 睿 日智

顕山院 日霽

本間 海解

薩庵(本妙院日臨)

古愚生(清水竜山)

風間 淵静

小笠原 日毅

小林 一郎

姉崎 正治

天 花

高田 恵忍

二宮 東一

当家本尊義(一) 清水龍山翻刻)

妙宗綱要(二)

日蓮上人の教義、信仰、行状の一斑

第三号 明治三八(一九〇五)年一二月

本妙和尚法語(二)

本尊抄探靈を評す

聖祖伝(三)

本宗より観たる教部与奪

日宗教育の沿革概要(二)

自力教と他力教とに就て

日蓮聖人の人格(続)

真理と人

中山の一夜

佐の前後に於ける宗祖の人格

病める友に

彙報(小林日薫林長猊下葬儀)

日蓮聖人の教義信仰行状の一斑(続)

第四号 明治三九(一九〇六)年六月

諸宗の教理及教判に於ける起信論の地位

家庭に於ける宗教的訓練

日蓮聖人の精根(一) 附大東島觀察

観如院日透

桓睿日智

本間海解

薩庵(本妙院日臨)

小林日董

風間淵静

稲田海素

小笠原日毅

芝田徹心

小林一郎

水村遵祥

二宮東一

吉田素恩

西村慈琬

本間海解

本間海解

富木堯廣

柴田一能

志賀重昂

欧米漫遊談

祖書研究の出発点

宗教と哲学

佐の前後に於ける題目の功德の異相

日原鍾乳洞探険記

日蓮聖人の教義信仰行状の一斑(続)

第五号 明治三九(一九〇六)年一〇月

当家本尊(二)本尊略義(翻刻)

寿量顕本論(一) 一 支那及び日本天台の

異同を述べ本宗の深旨に及ぶ

法相宗の一切唯識論(二)

東洋文献研究者の輩出を促す

日蓮聖人の精根 附大東島觀察(承前)

欧米宗教界近時の傾向

聖日蓮の宇宙観

如何にして宗乗を研究せん乎

真理と人(承前)

日蓮上人の教義信仰行状の一斑(続)

第六号 明治四〇(一九〇七)年六月

本尊論(三) 本門本尊記(翻刻)

寿量顕本論(二) 天台大師の寿量顕本論

石川半山

高田惠忍

西村慈琬

吉田素恩

鈴木玄考

本間海解

桓睿日智

古愚生(清水竜山)

K S 生(釈覚円)

箭内 亘

志賀重昂

河邊治六

西村慈琬

高田惠忍

水村遵祥

本間海解

桓睿日智

清水竜山

黨一切

發生心理学上より見たる日蓮聖人

日蓮上人の教義信仰行状の一班(統)

高楠順次郎

高島平三郎

本間海解

雪山山中の仏教国

日蓮の尊号

文勇武勇の弁

彙報 教頭本間海解僧正追悼文

日蓮聖人の教義信仰行状の一班(統)

鈴木真静

三宅雄次郎

鎌田栄吉

第七号 明治四〇(一九〇七)年一二月

本尊論(四) 本化別頭教観撮要抄訳

寿量頭本論(三)

法相宗の一切唯識論(二)

孝

釈尊降誕地迦毘羅衛城

宗教家たる要素

聖日蓮の教判、哲学及び信条

修学旅行感想談概要

日蓮聖人の教義信仰行状の一班(統)

本妙院日臨

清水竜山

釈 覚 円

高瀬武次郎

阿部全鼎

ラッドジョージ

高田恵忍

高島平三郎

本間海解

第九号 明治四一(一九〇八)年一二月

本宗綱要(異本)

妙行論

円頓法印尊海(承前)

開目抄と教育勅語

御本尊に於ける倫理的意義

時代を要求する宗教

修養と宗教(二)

宗教思想の発展

教理史上より見たる祖山歴代

(修学旅行感想録)

日蓮聖人の教義信仰行状の一班(統)

恒 睿 日 智

清水竜山

延 嶺 学 人

富 田 海 音

柴 田 一 能

高島平三郎

高島平三郎

河 邊 治 六

高 田 恵 忍

本 間 海 解

第八号 明治四一(一九〇八)年五月

教頭本間海解僧正追悼文

台荊異目 一 天台荊溪兩大師所説の異旨を

論す

木画本尊論 一 予が「本尊点眼疏」に就いて

山本某に答ふ

金陵教学の仏性論一班

円頓法印尊海

清 水 龍 山

優 陀 那 日 輝

清 水 竜 山

島 地 大 等

延 嶺 学 人

第一〇号 明治四二(一九〇九)年七月

本宗綱要(二)

妙行論(二)

聖祖伝(四)

恒 睿 日 智

清 水 竜 山

風 間 淵 静

台当交渉史稿(一)

台当異目(一)

鎌倉時代の人情風俗(日蓮聖人の側面研究)

戊申詔書と安国

過ぎ来し五年

日蓮上人の教義信仰行状の一斑(八)

第一一号 明治四二(一九〇九)年二月

開目抄撮要(承前)

台当交渉史稿(二)

聖祖伝(五)

台当異目(二)

仏教の開会思想

孔子を生みたる支那の社会

生死

将来の宗教家

羅什訳法華経品目に就いて小宮山君の質疑

に答ふ

日蓮聖人の教義信仰行状の一斑(九)

第一二号 明治四三(一九一〇)年六月

文底秘沈記

文底秘沈決膜

延嶺学人

北尾啓玉

川上多助

大内青巒

小林一郎

本間海解

桓睿日智

延嶺学人

風間淵静

北尾啓玉

常盤大定

江部淳夫

姉崎正治

安部磯雄

高田恵忍

本間海解

優陀那日輝

優陀那日輝

優陀那日輝

優陀那日輝

優陀那日輝

開目抄科文

玉沢桓睿師

二十唯識論を読む

人生の意義

日蓮聖人の教義信仰行状の一斑(十)

第一三号 明治四三(一九一〇)年七月

儒仏同意論

寿量所顕本覚三身論(一)

金剛智三蔵と楞迦島

聖祖伝(六)

精神の影響力と此点より觀察せる宗教に

関する二三の私見

近代文芸に関する雑感

日蓮宗宗論書解題(一)

第一四号 明治四三(一九一〇)年九月

本尊史論

寿量所顕本覚三身論(二)

十門唯識

梵文法華経の原本に就いて

修行なき宗教

徹底せる第一義生活

優陀那日輝

小笠原毅堂

妻木直良

瀧村斐男

本間海解

桓睿日智

望月歆厚

島地大等

風間淵静

増田惟茂

金子筑水

稲田海素

小笠原毅堂

望月歆厚

河野法雲

岡教達

松風

八

八

八

八

兵卒手簿より

演繹的態度と帰納的態度

日蓮宗論書解題(二)

湛山  
秋歌  
稻田海素

緒余録(二)

川柳の文学的価値

新訳ライオン物語

大崎から

臥龍山人(北尾日大)

小林一郎

鈍無為三蔵

第一五号 明治四三(一九一〇)年二月

祖書綱要に就いて

寿量所顕本覚三身論(三)

外道の法空観

世界的責任を自覚せる自力主義

旧思想と新思想

無名の先駆者となりて現代に殉ぜよ

近時の教学界

評論界

泣銀杏

日蓮宗論書解題(三)

日宗北総史料(一)

S S 生

望月 歆 厚

常盤 大 定

白松 南 山

小林 一 郎

松 風

弔 星

八 朶

西村 慈 珖

稻田 海 素

稻田 海 素

鎌倉時代と日蓮上人

無題

日本天台と日蓮上人

真言教徒法華読誦の意義

緒余録(其二)

玄旨帰命壇の沿革及び教理事相の一斑(一)

哲人トルストイ翁

蓮華蔵注釈

小泉要智君追悼文

日宗北総史料(承前)

第一七号 明治四四(一九一一)年三月

守屋 貫 教

小泉 要 智

西村 慈 珖

大槻 快 尊

臥龍山人(北尾日大)

岡 教 邃

八 朶

優陀 那 日 輝

大崎学報記者

稻田 海 素

第一六号 明治四四(一九一一)年二月

啓蒙講師の配所生活 — 録内啓蒙著作始末 —

絶対者倒潰の時代と智見の時代

摩利支天論

中古天台の顕本論

種脱同異論

小泉 要 智

石橋 湛 山

島地 大 等

遠藤 是 妙

北尾 日 大

我国将来の宗教と日蓮主義

本尊史論 付読嶼村日正師本尊論、

宝塔方円論(一)

緒余録(其三)

玄旨帰命壇の沿革及教理事相の一斑(二)

本多 日 生

小笠原 毅 堂

臥龍 山 人

岡 教 邃

教学論第一 — 仁智不可偏廢論 —

遊心法界鈔

日宗北総史料 (承前)

木内 柔克

通本 日智

稲田 海素

業論大意 (二)

ファイヒンゲル教授の『哲学者としての  
ニーツチェ』 (二)

仏教の起源  
ストラッゲル

妻木 直良

白松 孝次郎

遠藤 是妙

松 風

弔 星

青木 白風

## 第一九号 明治四四 (一九一一) 年九月

扶老撰主日好師

本尊史論 付読嶼村日正師本尊論、

宝塔方円論 (二)

業論大意 (一)

四門に就て

ファイヒンゲル教授の『哲学者としての  
ニーツチェ』 (一)

日宗北総史料 (承前)

向井 教遠

小笠原 毅堂

妻木 直良

荻原 雲来

白松 孝次郎

稲田 海素

## 第二一号 大正元 (一九一二) 年二月

安国院日講上人

教理史上に於ける元政上人 (二)

本宗先師の見たる山家山外 (二)

藻原山所蔵之金綱集裏打文書 (二)

朝鮮の義僧西山大師

仏教の哲学 (一)

楽聖シューマンの家訓を読む

谷山ヶ丘より

宗門の出版界

台延宗要録

小泉 要智

西村 慈珧

望月 歆厚

稲田 海素

常磐 大定

遠藤 是妙

小林 一郎

## 第二〇号 明治四四 (一九一一) 年二月

臨師独語

藻原山所蔵之金綱集裏打文書

立正安国の名義

安心か奮闘か

仏法と世法

日蓮上人配処の感に就て

人と動物

信の一字

守屋 貫教

稲田 海素

藤田 文哲

小林 一郎

常盤 大定

磯野 本精

瀧村 斐男

山内雄太郎

## 第二三号 大正元 (一九一二) 年五月

教理史上に於ける元政上人 (二)

三摩地門の仏教に就て

優陀那日輝

西村 慈珧

島地 大等

日本天台口伝法門の由来及其發達  
神道と仏教  
重須大学頭日澄  
谷山ヶ岡より  
若葉の裏から

岡 教 達  
佐藤鉄太郎  
富谷 旭 露

性相隨筆  
新時代の宗教家  
雜感一束  
玄要略  
乗体決

妻木直良  
小林一郎  
瀧村斐男  
優陀那日輝  
優陀那日輝

第二三号 大正元（一九一二）年七月

本宗先師の見たる山家山外（其二）  
日本天台口伝法門の由来及其發達（二）  
起信論所説の阿梨耶識と唯識論  
仏教の哲学（承前）  
洋学の先驅者精進院日解聖人  
寧ろ拙なれ  
桐陰閑語  
血脈譜  
用心鈔  
本門心底鈔

望月 歆 厚

岡 教 達

河野 法 雲

遠藤 是 妙

柴田 一 能

小林 一 郎

秋 江

三位阿闍梨日順

三位阿闍梨日順

三位阿闍梨日順

第二五号 大正元（一九一二）年十二月

本宗先師の見たる山家山外（其三）  
本宗の釈法に就て  
日本天台口伝法門の由来及其發達（其四）  
仏教の心理学的問題  
其乃往を移す  
布教に応用したる教授法  
經体正論

望月 歆 厚

向井 教 達

岡 教 達

遠藤 是 妙

高嶋平三郎

松嶋 正 泰

優陀那日輝

第二六号 大正二（一九一三）年一月

明治天皇哀悼文  
顯本論（私新鈔抜粹）  
教理史上に於ける元政上人（三）  
日本天台口伝法門の由来及其發達（三）

本能寺日隆

西村 慈 珖

岡 教 達

本覚思想台当交渉史論（一）  
旗曼荼羅及宗牒に就きて  
日本天台教籍の開題（一）  
諸門唯識

宗教の本質を論ず

身延貫主日唱聖人の不受不施事件

十月十三日

高田 恵 忍

藤田 文 哲

島地 大 等

中村 孝 敬

守屋 貫 教

岡 教 達

姉崎 正 治



谷山ヶ岡より

牛後録(一)

宗義録(一)

秋 江  
優陀那日輝

三蔵教

現代の批評家としてのオイケン

改革者スワミ、ダヤナンド(承前)

青葉蔭より

新刊紹介

椎尾 弁 匡  
安部 能 成  
松 風  
天 洋

## 第二七号 大正二(一九一三)年三月

本尊教観史論

日本天台教籍の開題(二)

二諦相依

仏教の心理学的問題(二)

教理と信仰

神秘に対するマーテルリンクの態度

改革者スワミ、ダヤナンド(一)

断想録

垂涎録

牛後録(二)

一味雨を読む

宗義録(二)

藤田 文哲  
島地 大等  
中村 孝敬  
遠藤 是妙  
馬田 行啓  
土居 光知  
松 風  
天 洋  
湖 上 人  
秋 江  
白 風  
優陀那日輝

## 第二九号 大正二(一九一三)年七月

嘉祥と天台大師

授職灌頂口伝鈔真偽弁

本覚思想台当交渉史論(三)

日本天台教籍の開題(四)

ウイリアム、ゼームスの宗教哲学

溜溪筆談

優波尼沙土哲学

木下蔭より

叟骨集瞥見

富田 海音  
藤田 文哲  
高田 恵忍  
島地 大等  
河辺 治六  
妻木 直良  
木村 鷺峰  
芝 水  
妻木 直良

## 第二八号 大正二(一九一三)年六月

法華開結二經台当の進退

本覚思想台当交渉史論(二)

日本天台教籍の開題(三)

本尊鈔興本対照記

藤田 文哲  
高田 恵忍  
島地 大等  
富谷 日震

諸宗の教理及教判に於ける起信論の地位

(接第四輯)

日隆聖人の顕本論について(二)

楞嚴中の法華

日本天台教籍の開題(五)

富木 堯廣  
望月 歆厚  
常盤 大定  
島地 大等

仏教の心理学的問題(続)  
邃満二師相承と慧檀両流(一)  
文芸の現在と将来  
谷山より

遠藤是妙 訳  
岡 教 邃  
南 日 重 治

日本天台教籍の開題(六)  
邃満二師相承と慧檀両流(二)  
現代の哲学に就いて  
想華  
小鳥の巢から  
新刊紹介

島 地 大 等  
岡 教 邃  
稲 垣 末 松

### 第三二号・創立一〇周年記念号

大正二(一九一三)年二月

祖典中に於ける日本天台  
法華経より見たる仏教  
一念三千重義決  
祖書編纂史考  
華嚴法華二経の交渉  
新羅の高僧円測法師  
唯識論に出でたる破我の梗概  
聖祖の感応生活  
自我の信  
理智と直観と宗教  
気と心  
創立当時の追懐

清 水 龍 山  
本 多 日 生  
清 水 梁 山  
浅 井 要 麟  
河 野 法 雲  
妻 木 直 良  
吉 田 素 恩  
加 藤 文 雄  
江 部 淳 夫  
柴 田 一 能  
芝 田 黙 鈴  
柴 田 一 能  
藤 田 文 哲  
向 井 教 遠

第三三号 大正三(一九一四)年三月  
東台両密の顕密判(二)  
日隆聖人の顕本論について(二・接第三十号)  
日本天台教籍開題(七)  
西溪談林史論(一)  
邃満二師相承と慧檀両流(三)  
時の至れるに非らざるか  
感和尚の超祥忌に  
谷山ヶ丘より

藤 田 文 哲  
望 月 歆 厚  
島 地 大 等  
吉 田 素 恩  
岡 教 邃  
山 田 三 良  
富 木 堯 廣  
藤 田 文 哲

### 第三二号 大正三(一九一四)年二月

東台両密の顕密判(一)  
健抄考

藤 田 文 哲  
向 井 教 遠

第三四号 大正三(一九一四)年六月  
東台両密の顕密判(三)  
日本天台教籍開題(八)  
西溪談林史論(二)  
邃満二師相承と慧檀両流(四)  
思想と生活

藤 田 文 哲  
島 地 大 等  
吉 田 素 恩  
岡 教 邃  
安 倍 能 成

想華

谷山ヶ丘より

谷山ヶ丘より  
教界時報

第三五号 大正三（一九一四）年七月

妙行総論（一）

治病鈔著作年代考

西溪談林史論（三）

日本天台教籍開題（九）

ヴントの民族心理学

優婆尼沙土哲学（二）

鹿兒島開教談

想華

谷山ヶ丘より

細木鍾山  
向井教遠  
吉田素恩  
島地大等  
鈴木宗奕  
木村竜寛  
浅野常瑞

第三七号 大正三（一九一四）年二月

末法灯明記の真偽

西溪談林史論（五）

優婆尼沙土哲学（三・続学報第三十五号）

予か日蓮聖人

感想録

想華

大蔵会の記

祖山登詣記

古愚生（清水龍山）

吉田素恩

木村龍寛

境野黄洋

田部重治

第三八号 大正四（一九一五）年二月

天親の法華経観（一）

再び天台観経疏の真偽に就て

西溪談林史論（六）

大蓮阿闍梨日行傳（一）

戦争と根本的倫理思想

向陵集

想華

谷山ヶ丘より

高野印象記

清水梁山

古愚生（清水龍山）

吉田素恩

岡教邃

河邊治六

小林一郎

第三六号 大正三（一九一四）年一〇月

天台観経疏の真偽（上杉文秀氏の会釈を望む）

古愚生（清水龍山）

妙行総論（二）

西溪談林史論（四）

印度仏教近世史概論

近代思想の由来の一面（本学創立記念日講演）

大観と細密

想華

細木鍾山  
吉田素恩  
木村龍寛  
境野黄洋  
宇野哲人

石川海典

第三九号 大正四（一九一五）年五月

天親の法華経観（続前）

末法灯明記の真偽

西溪檀林史論（七）

大進阿闍梨日行伝（続前）

仏教の根本概念

論艸山詩

第六百九十四回宗祖降誕会記

第四〇号 大正四（一九一五）年七月

読大記（一）

西溪檀林史論（八）

優婆尼沙土哲学（四）

如何にして真を見る

梅花三十絶

谷山ヶ丘より

第四一号 大正四（一九一五）年一〇月

三種成仏論

当宗法数

国家と哲学的精神

仏教の根本概念

想華

谷山ヶ丘より

第四二号 大正四（一九一五）年一二月

今上登極恭賦一章

題目台当弁（一）

西溪檀林史論（九）

日本天台教籍開題（二〇）

仏教と基督教（一）

理想の宗教と現実の宗教

大蔵経に就いて

大蔵会記

想華

二人の丘

谷山ヶ丘より

第四三号 大正五（一九一六）年二月

題目台当弁（二）

天台大師の円頓戒概論

読大記（二・統第四十号）

西溪檀林史論（一〇）

日蓮宗俗説弁

谷山ヶ丘より

京阪修學旅行記

房洲行記

第四四号 大正五(一九一六)年六月

境雲日遙老師像贊並序略

題目台当弁(三)

西溪檀林史論(十二)

忍難慈勝

仏教と基督教(二)

日本文学の仏教的方面

哲學の問題(二)

奉輓境雲院日遙和上

谷山ヶ丘より

田 辺 善 知

吉 田 素 恩

磯 野 本 精

高 田 惠 忍

境 野 正

柿 沼 勝 孝

清 水 龍 山

第四五号 大正五(一九一六)年十一月

本化信行論

本覺寺住師伝実考(二)

西溪檀林史論(十二)

宗教と科学

仏教と基督教(三)

谷山ヶ丘より

北 尾 日 大

向 井 教 遠

吉 田 素 恩

馬 田 行 啓

八 朶 生

第四六号 大正六(一九一七)年五月

迦毘羅衛城趾考

本覺寺住師伝実考(承前)

西溪檀林史論(十三)

宗教興隆の社会的縁由

哲學の問題(二)

谷山ヶ丘より

第六百九十六回宗祖降誕会記

日光足尾修學旅行記

第四七号 大正六(一九一七)年七月

天台大師の弥陀法浄土觀

題目台当弁(四)

宗教哲學の問題

哲學の問題(三)

觀門より教門へ

第四八号 大正六(一九一七)年十一月

祖書に現れたる仏滅年代

題目台当弁(五)

鎌倉時代に於ける本地垂迹說到就て

宗教意識(二)

岡 教 遠

向 井 教 遠

吉 田 素 恩

志 水 義 暉

柿 沼 勝 孝

北 村 大 威

井 上 惠 宏

田 邊 善 知

桑 木 嚴 翼

柿 沼 勝 孝

H Y 生

鹽 田 義 遜

田 邊 善 知

新 間 智 啓

柿 沼 勝 孝

弱き宗教強き宗教

高田 恵忍

哲学より観たる宗教

紀平 正美

第四九号 大正七（一九一八）年三月

唱題成仏論（一）

石川 海典

回顧談（一）  
大崎の十一年間  
谷山学園に対する吾人の希望

脇田 堯惇

鎌倉時代に於ける本地垂迹説に就て（二）

新間 智啓

落慶式記事

小林 一郎

我国の神話

土居 光知

済上漫筆（一）

津川 日濟

第五一号 大正八（一九一九）年一月

ベンガル垂細亜協会に存する印度政庁蒐集

木村 龍寛

唱題成仏論（二）

石川 海典

梵語写本第一卷仏教梵語写本目錄紹介

柿沼 勝孝

鎌倉時代に於ける本地垂迹説に就て（二）

新間 智啓

宗教意識（承前）

稲田 海素

済上漫筆（二）

津川 日濟

草山元政上人日記一節

向井 看雲

思想上より見たる大戦乱の終結

鈴木 宗忠

静勝熱記

向井 看雲

印度に於ける仏教衰頹の原因及興立策

岡 教達

母校再築落成・第五十号記念号

大正七（一九一八）年八月

詩想  
谷山ヶ丘より  
佐渡ヶ島の夏

吉田 智恵

落成賀詞

木内 柔克

吾祖御引用の三祖釈中妙楽の釈につきて

風間 随学

第五二号 大正八（一九一九）年四月

本覚法門発達史論（聖祖の学説の由来の序論）

清水 龍山

妙法華分科の沿革（第一回）

塩田 義遜

日蓮聖人と聖徳太子

望月 敏厚

日本国の有無

田中 智学

支那仏教史上に於ける羅什三蔵の位置

馬田 行啓

仏教史上に於ける日蓮聖人の特色

井上 哲次郎

優陀延王国 橋賞弥大都城趾に就て

岡 教達

学道第一義（特に中等科新入生諸君の爲めに）

加藤 文雄

聖徳太子に就て

境野 黄洋

降誕会の記

日宗の七色と強国主義

建部 遯吾

第五三号 大正八(一九一九)年七月

- 聖德太子の法華經觀  
妙法華分科の沿革(二)  
汎美論的道德觀  
生活問題と日蓮主義  
祖書綱要並に同刪略に就て  
米國主義について  
島の友へ
- 清水龍山  
塩田義遜  
吉田静致  
野沢悌吾  
稲田海素  
大場玄勇  
I S

第五四号 大正八(一九一九)年一二月

- 妙法華分科の沿革(三)  
列聖御製の法華經讚歌研究(一)  
平等と差別  
宗教と信仰  
真藏院藏書目錄解題(一)  
鼠の眼より  
台灣より申上候
- 塩田義遜  
山上、泉  
富木堯廣  
小林一郎  
藤田文哲  
不二生  
秋草生

第五五号 大正九(一九二〇)年二月

- 草木成仏論  
最蓮房上人伝に就て(一)  
妙法華分科の沿革(四)
- 清水龍山  
岡教遜  
塩田義遜

- 列聖御製の法華經讚歌研究(二)  
境妙庵目錄著考  
真藏院藏書目錄解題(二)  
信仰と觀念に就て  
法難の梗概
- 山上、泉  
浅井要麟  
藤田文哲  
I S  
S G

第五六号 大正九(一九二〇)年七月

- 觀心本尊鈔要義 一 一部の正宗を述要し觀心  
本尊の題目を解釈す付綱要の三分の謬を匡す

- 最蓮房上人伝に就て(二)  
列聖御製の法華經讚歌研究(三)  
吾等の準備  
旃陀羅に就て  
漢詩  
青葉の丘より
- 清水龍山  
岡教遜  
山上、泉  
佐藤鉄太郎  
加藤通温  
古愚  
I S

第五七号 大正九(一九二〇)年七月

- 密教の成仏論概説(一)  
本門戒壇法門に就て(一)  
南方仏教の根本義  
平左衛門尉頼綱に就て  
真藏院藏書目錄解題(終)
- 石川海典  
岡教遜  
ニヤナチロカ  
和田英松  
藤田文哲

寿命と光明との象徴  
俳句

憲 太

第五八号 大正一〇(一九二一)年一月

第三の信

望 月 敏 厚

密教の成仏論概説(二)

石 川 海 典

伝教大師と法華三部(妙法華分科の沿革五)

塩 田 義 遜

大本教の心理学的批判

中 村 古 峽

文底秘沈記の著書に就て

塩 田 義 遜

漢詩

鈍栗鈔

I S

箱根から玉澤への旅

雁坂峠

第五九号・聖誕七百年記念日蓮聖人号

大正一〇(一九二一)年二月

聖祖の御名に就きて

風 間 随 学

日蓮聖人自伝

鈴 木 一 成

日蓮聖人嚴愛二方面

北 尾 日 大

日蓮聖人の弟子檀那に対する態度

青 木 見 孝

日蓮聖人の滅後

影 山 堯 雄

十一通書状から竜ノ口へ

姉 崎 正 治

法華経の教義と聖日蓮

清 水 龍 山

日蓮聖人の法華経観

日蓮聖人の仏陀観

日蓮聖人の成仏観

日蓮聖人の理想表現の形式

上行再誕論

日蓮聖人の仏教観 自我の哲学的宗教

不惜身命

日蓮聖人の人生観

日蓮聖人の道德観

日蓮聖人の文学観

近代思潮と日蓮聖人

日蓮聖人の民衆的宗教

天台大師と日蓮聖人 ―止観より妙法へ―

日蓮聖人の批判的精神

伝教大師と日蓮聖人

慧心僧都と日蓮聖人

法然上人と日蓮聖人

基督教と日蓮聖人 絶対的国家救済主義

日蓮聖人の国家観

予言者としての日蓮聖人

日本仏教史上に於ける日蓮聖人

宗教史上に於ける日蓮聖人

富 木 堯 廣

望 月 敏 厚

石 川 海 典

小 林 是 恭

藤 田 文 哲

田 邊 善 知

小 林 一 郎

加 藤 文 雄

高 島 平 三 郎

山 上 智 海

柴 田 一 能

中 村 元 勇

井 上 恵 宏

柿 沼 勝 孝

塩 田 義 遜

岡 教 邃

磯 野 本 精

高 田 恵 忍

守 屋 貫 教

石 川 海 浄

馬 田 行 啓

寺 澤 智 了



宗教学上より観たる日蓮聖人

(日蓮聖人の仏陀観)

文学史上に於ける日蓮聖人

讃頌

誕生寺を大本山とするの儀

日蓮大聖人を偲ぶ

宗祖降誕の因縁と学問

鈴木宗忠

境野正

龍山・惠鐘・正

柔克・智海・学

田中智学

小原正恒

本田義英

第六二号 大正二一(一九三二)年一月

佐渡始頭曼荼羅考

仏慧と法華経

教判としての三段 — 妙法華分科の沿革七 —

文化主義に就て

旭光照波

渴した人々の群れが

田邊善知

磯野本精

塩田義遜

遠藤隆吉

さだを

第六〇号 大正二〇(一九二二)年八月

日本天台の三段説 — 妙法華分科の沿革六 —

本門戒壇法門に就て(二)

文芸上より見たるロシア

時今谷山旗挙

新漢詩

漢詩

第六三号 大正二一(一九三二)年二月

日蓮聖人の寿量本仏観

聖祖門下の本迹論

四明知礼の観心論に於ける創設(二)

本仏観史(前編) — 日蓮上人以前 —

社会の新觀念と現代生活批判

髑髏の舞と傀儡の吹奏

水平線上の波瀾

優曇華

佐渡行

高田恵忍

浅井要麟

井上恵宏

鈴木一成

杉森孝二郎

山上、泉

與志秀

永倉唯嘉

黒田・小野合記

第六一号 大正二〇(一九二二)年一〇月

四明知礼の観心論に於ける創設

四箇伝法に就いて

原始仏教の研究に就いて

日具上人と妙本寺

宗学及宗教教育の原理

貧民窟を訪問して

第六四号 大正二二(一九三三)年四月

日蓮聖人の慧心僧都評

本仏観史(一)

小林是恭

鈴木一成

久遠の宗教者

「立正」と現代社会

欧米人の老子観

欧米視察談

日淳上人紀功碑

奉簡癡堂富田上人

富田先生の終焉

撰時抄を読んだ私の感激

路は険しく遠い

富田教頭追悼文

第六五号 大正二二(一九三三)年二月

南無妙法蓮華経の研究

本門戒壇の研究

檀那流に濫觴せる当家の主義

本仏観史(三)

仏教の本領

宗教に於ける究竟者の無限性と対象性

現代宗教観念の興起(一)

哭癡堂富田海音師

和靖洲先生朝鮮懷古製外数首

宗教より生活へ

欠けたるわれはかくして完成へ

田中桃堂

濱田本悠

竹内松治

井上哲次郎

清水龍山

木内柔克

浅井要麟

福島義孝

與志秀

求道に生くるもの

墮落に甘んぜんとする傾向

不死の家

第六六号 大正二四(一九三五)年三月

立正大学の精神

大曼荼羅本尊に対する唱と信と観との関係

文化史的に観たる宗教と国家との関係

カントの現実宗教に対する取扱方

仏界縁起論

弱者忍辱をして救ひ

国文学の流

独逸青年運動とその宗教態度

外来文化と社会心理

フランツ・ブレンタノ(一)

歌詩

御書続集編輯考

現代宗教観念の興起(続)

ヴェーダ文学に於けるウパニシャトの地位

倫理学史概論序説

歴史的発展の経過

支那仏教界の現状と日本仏教徒の覚悟

仏教の本領(前承)

福島義孝

多佳

黒田孝正

馬田行啓

高田恵忍

山川智応

斯波義慧

清水龍山

田中桃堂

境野正

濱田本悠

桑田芳蔵

三枝博音

塩田義遜

マクギフェルト著

都守泰一訳

ドイセン

シジュイック

パウルゼン

井上鷲嶺

中村元勇

第六七号 大正一四(一九二五)年一〇月

立正大学奉安の本尊解説  
中道観と法華本門の哲理  
宗教の階級性及び超階級性  
一乗方便の説  
観心と信心とを弁じて教観二門の本尊に及ぶ  
田邊本多両師の本尊論を評す  
フランツ・ブレンタノ(二)  
ウパニシャット哲学

北尾 日大  
岡 教達  
田中 桃堂  
望月 宣諦  
片山 英岳  
竜華 道人  
三枝 博音  
ヒュム 著  
江原 亮瑞 訳

日奥上人の不受不施論と為政者との関係(一)  
天文法乱に就て  
立正大学附近の史的趣味  
日本を中心として世界歴史を観察せよ  
経済家としての細井平洲  
東京附近の地形  
文苑  
御斎会の概観  
新羅寺院の分布  
国府台国分寺真間見学旅行記

影山 堯雄  
昇塚 清研  
松本 勘太郎  
浅野 利三郎  
沢田 章  
浅井 治平  
田邊・山上  
富田 啓温  
岡野 潮醇  
史学 会

第六八号 昭和元(一九二六)年二月

修辞学より観たる日蓮聖人の文章法  
本門法華宗教義大要(日隆聖人教義)  
知識の可能性(一)  
ベルグソンの知的努力論  
歴史家としての興味  
西藏仏教の概観  
ウパニシャット哲学(二)  
文苑

山上、泉  
桃井 日晃  
斯波 義慧  
西宮 藤朝  
三上 参次  
河口 慧海  
ヒュム 著  
江原 亮瑞 訳  
津川 政雄

第七〇号 昭和元(一九二六)年二月

観心と信心とを弁じて教観二門の本尊に及ぶ  
(接第六十七号)  
予の見たる題目宗本尊観  
本門の本尊論  
高祖御所立の本尊に就きて  
既定の本尊論  
現下の本尊問題に就て  
本尊問題に関する側面観  
光明点の文字より出づる白毫の光  
曼陀羅礼讃  
南無妙法蓮華経活仏論

塩田 義遜

片山 英岳  
高田 恵忍  
桃井 日晃  
富谷 日震  
田邊 善知  
田中 桃堂  
中村 元勇  
長橋 啓  
西村 慈珖  
河合 日辰

第六九号 昭和元(一九二六)年九月

法華経の漢訳に就て

清澄師友対吾祖大士  
認識小考

知識の可能性(承前)

Brahmanaspatiの哲学

宗教に於ける批判原理

教学者及信仰家の批評立場―

本門本尊の实在性に就て

信仰と研究

第七二号 昭和二(一九二七)年二月

本尊鈔に於ける能所観二段の要旨を論じ信、

観、唱及び本尊の意義を明にす

妙蓮寺再興祖日応上人と其俗姓

自然淘汰に就て

奈良時代の宗派組織に就いて

阿含と法華

徳川時代に於ける儒仏二経の關係について

伊豆法難会席上法語

ディルタイの「精神科学序説」の序文

生命主義的道徳論の実証的側面

多摩陵附近の史的趣味(其一)

数論学派の二元の結合に就て

阿頼耶識に就て

儒教体系概論(講演大要)

心頭小景

路上

詩文

嗚呼島地大等師

村上博士の「実践論」を読む

清水 竜山

三枝 博音

斯波 義慧

江原 亮瑞

宮崎 浅次郎

河田 恵量

北尾 日大

高田 恵忍

昇塚 清研

遠山 潮徳

石田 茂作

岡 教遷

岩橋 遵成

磯野 本精

三枝 博音

ギユヨオ著

西宮 藤朝

松本 勘太郎

山本 快龍

望月 宣諦

服部 宇之吉

山上 泉

大槻 古壽

木内 柔克

清水 竜山

清水 竜山

清水 竜山

第七一号 昭和二(一九二七)年三月

国語問題解決の急務

漢文改廃反対意見

濠洲に於ける賃銀制度と移民問題

群衆心理の最近の研究

太田道灌時代より幕末に至る江戸の変遷

木曾の御岳紀行 ― 道者に交って―

観心本尊鈔理趣の社会学的見解に於ける研究

方法の端緒に就いて

中世の聖法学と経済現象

shakespeareと宗教

近業二十八首

漢詩

立正短歌会近詠

第七三号 昭和三（一九二八）年一月

立正大師の本尊に就て

経論に於ける正像末観

Tieftrunkの宗教哲学

（カントの倫理的宗教の継承者として）

マヒダーサの哲学

教育の社会的基礎

極南新西蘭に於ける酒精問題

古代に於ける宗教と法律との関係

多摩陵附近の史的趣味（其二）

万葉歌人の美的感情に就いて

変若水考

鎌倉時代の新興文学と仏教思潮

皆是真実の証明につき台当二祖の異同

キーツの芸術と感覚

俳句

北尾 日大  
塩田 義遜

守屋 貫教

石川 海浄

北沢 新次郎

生江 孝之

浅野 利三郎

松本 勘太郎

次田 潤

武田 祐吉

山上 〱 泉

中谷 良英

小林 征二

三戸 黙語郎

第七四号 昭和三（一九二八）年七月

日導上人の宗学を評す（祖書綱要刪略批判）

仏教史上に於ける三時観

室町徳川両時代の国文学と仏教との交渉

ドクトル・ヨーハン・ファウスト

北尾 日大  
塩田 義遜  
山上 〱 泉  
岩本 経丸

多摩陵附近の史的趣味（其三）  
句帖より

奈良朝寺院奴婢の逃亡と解放

平安朝文学に及せし白楽天の影響

日蓮聖人御伝記の通俗読本廿五種

The Failure of The Kemmu Restoration

RICHARD PONSONBYFANE

第七五号・立正大学創立二十五周年

記念特輯号 昭和三（一九二八）年一月

吾聖日蓮の仏教統一

（一代聖教と妙法五字七字）

靈山往詣について

本覚門教義概説

宗教の基礎としての感情

（宗教本質論に於ける一考察）

心靈の構造（一）

阿毘曇藏の考察

精神発達に就いて

武田勝頼滅亡以後の武田家

民族主義

古代支那の呉語呉音に就いて

人権地理上より観たる亜米利加黑人問題

松本 勘太郎  
三戸 黙語郎  
庄司 寿完  
今村 是竜  
山上 〱 泉

清水 竜山  
望月 歆厚  
高田 恵忍  
守屋 貫教  
三枝 博音  
岡 教邃  
桑田 芳蔵  
渡辺 世祐  
今井 登志喜  
中村 久四郎  
松尾 俊郎

喜劇の進化

人間生活史に於ける和歌の位置

大札頌歌

唐詩の研究に就きて

輪廻思想を中心として見たるウパニシャット

哲学

The Sociological Research of The Anti-Japanese

Movement in California

TOYAMA CHOTOKU

市川又彦  
武田祐吉  
山上、泉  
田辺松坡  
江原亮瑞

万葉集に現れたる仏教学徒の作歌私見

謡曲「高砂」に就いて

シングの「いかけやの婚礼」

サロジニ・ナイズの詩に就いて

詩藻

山上、泉  
境野正生  
Y M  
小林征二

第七七号 昭和四（一九二九）年一二月

現代ロシア婦人の地位に関するソンプソン氏の觀察

の觀察

支那民族性に関する考察と社会問題

明日の日本のために

滞英追憶記

本邦古瓦に就いて

軍縮の文化史的考察

唐音研究の一斑

物品称数便覧

聖徳太子十七条憲法の研究

台湾における埤圳事業

人口の分布及び増減に就て

―河川文明地に於ける例

北米大陸の発見及びその地理学的研究の歴史

に就きて

不連続線

第七六号 昭和四（一九二九）年一〇月

日蓮聖人の宗教（十界事常住論）

大涅槃經を讀みて

印度の祭祀儀礼に就て（一）

ヨアヒム・ワッハ氏の法華經研究

原始法華思想が提出する問題中法華原形論

開日本尊両鈔の綱領及異同

心靈の構造（前承）

フリースの宗教哲学

中世におけるプラトニズム（一）

漢詩研究の題目

わが国に方言のいちじるしく発達した理由について

中世文学の概観

高田恵忍  
馬田行啓  
木村龍寛  
濱田本悠  
布施浩岳  
中谷良英  
三枝博音  
守屋貫教  
斯波義慧  
田邊松坡  
保科孝一  
武田祐吉

河邊治六  
生江孝之  
北沢新次郎  
久保田正文  
石田茂作  
浅野利三郎  
中山久四郎  
松本勘太郎  
林田鍊進  
浅井治平  
松尾俊郎  
福井英一郎  
西村伝三

詞藻

第七八号 昭和五(一九三〇)年二月

三学六度進退論

人生の要求と仏教の帰趣

印度の祭祀儀礼に就て(其二)

数論頌の頌数の取扱ひに就いて

宗教の本質発見への道

中世に於けるプラトニズム(承前)

神秘主義的宗教学

経済的不況と資本主義の行衛

日本儒学史上における仏家の功績について

範数の学

民国学者の日本研究

日蓮聖人御遺文語法研究

国文学上の一斑性と全豹性

平安朝文学に現れた仏教思潮

伊呂波歌成立前の仮名手習詞

日蓮宗の歌聖元政上人

ジャン・オオステン

仏陀の婦人観に対する一考察

丹後国桑飼村蛭子山、並に作り山 両古墳に

就て

統計地震学について  
道志川斜面の地形と人文の概観  
宗教問題について

橘口春光  
高橋修司  
村野忠治

第七九号・日蓮聖人六百五十

遠忌記念特輯号 昭和六(一九三一)年二月

日蓮聖人の使命

三大秘法の組織に就ての一考察

三大秘法抄の研究

立正主義信解行証広略要概説(本化行学論)

宗学鉤玄

信の典型としての日蓮聖人

根本仏教より法華経まで

日蓮聖人絵詞伝の研究

一画主文従の代表的仮名御伝記に就て一

日蓮聖人御遺文漢梵辞彙

山上、泉  
江原亮瑞

第八〇号・宗学研究創刊号

昭和七(一九三二)年二月

宗学に於ける現在の諸潮流と吾等の態度  
明治時代に於ける大乘非仏説論を回顧す

山川智応  
加藤精神

村上 木

北尾 日大  
磯野 本精  
木村 龍寛  
山本 快龍  
守屋 貫教  
斯波 義慧  
濱田 本悠  
北澤 新次郎  
岩橋 遵成  
渡辺 秀方  
中山 久四郎  
山上、泉  
境野 正  
華山 申四郎  
坂輪 浪男  
岩村 元始郎  
磯野 進太郎  
三田村 等治

第八一号 昭和七（一九三二）年一二月

本迹論と日蓮宗の分派（後編）

望月 敏厚

大乘小乗という名義の歴史的研究

木村 日紀

卒堵波と法華經

布施 江学

如来の名号に関する考察

石川 海浄

第八二号 昭和八（一九三三）年六月

観心本尊鈔要義

― 其一・四十五字法体の大旨 ―

清水 龍山

杜順は華嚴宗の初祖にあらず

境野 黄洋

法華曼陀羅と多宝塔

塩田 義遜

摩訶羅 (Mathara) の年代に就いて

山本 快龍

阿毘達磨に於ける業論の一考察

坂本 幸男

自然について

三枝 博音

第八三号・立正大学創立三十年記念論集

昭和八（一九三三）年一〇月

御義口伝に於ける台密と法華神道

清水 竜山

観心本尊抄四十五字法体段正義

山川 智応

関東派不受不施論者の宗学

望月 敏厚

日蓮聖人家譜の研究

浅井 要麟

阿育王之教法

木村 日紀

正法華經讃仰史

唱題成仏の理論と実践的意義

神を克服せる人々

布施 浩岳

古刻書史上より観たる「日蓮聖人註画讃」の

馬田 行啓

体系と其の影響

浜田 本悠

歴史哲学の一問題 ― 存在の歴史性 ―

山上、泉

寺院経済に就いての一考察

樺 俊雄

エル・ティ・ホプハウスの国家学説

北沢 新次郎

水戸義公の信仰

久保田 正文

母と妻との為に受ける現代服忌の準拠

昇塚 清研

爪哇の仏蹟ボロブドル

松本 勘太郎

立正大学三十年史

加藤 朝鳥

第八四号 昭和九（一九三四）年六月

印度古代文化と二種のアリヤン種族

木村 日紀

書写法行論 ― 經典研究の方法論として ―

布施 浩岳

仏教美術研究資料としての法華經

逸見 梅栄

方等に関する研究

石川 海浄

法界縁起を終局としての縁起観の発達

坂本 幸男

本尊梵字考

大島 仲太郎

当宗宗旨名目の述作年代について

執行 秀雄

法華神道秘訣の著者に就いて

鈴木 常耀

日蓮聖人御書目録集（一）



第八五号 昭和九(一九三四)年二月

優陀那和尚の事観論に於ける一念	望月 敏厚
法華經西域本の特質	本田 義英
威儀形色經について	石川 海典
寿量観心論 — 清水・山川二家の「観心本尊	中谷 良英
鈔四十五字法体」の論議を読んで—	大島 伸太郎
提婆品挿入説に就きて	久保 常晴
題目板碑について	執行 秀雄
佐渡第一篇の「富木入道殿御返事」について	稲田 海素
祖書鑽仰史談(一)	

第八七号 昭和一〇(一九三五)年二月

印度に於ける仏造像之歴史的研究	木村 日記
日像上人の書狀に就いて	鷲尾 順敬
両密の法華曼荼羅に就いて	塩田 義遜
観心本尊抄四十五字法体段「己心」の解釈に就いて	高田 恵忍
天台座東陽房忠尋師伝考	田中 恵春
能動的思想の創造力と日蓮の精神	モンテネグロアルバレス
日蓮聖人御書目録集(三) 身延意師筆御書目録	
BUDDHISM IN CEYLON	PULLE VEP

第八六号 昭和一〇(一九三五)年七月

日蓮聖人遺文の文体に関する問題	浅井 要麟
日蓮宗の絵曼荼羅に就いて	影山 堯雄
一念三千の法体と行法	山川 智応
国文学に及ぼせる提婆達多品の影響	山上 々泉
諸論書に於ける法句經の一偈	坂本 幸男
アリストテレスの哲学必要論	波多野 通敏
宗学組織論	真野 正順
祖書鑽仰史談(第二回)	稲田 海素
日蓮聖人御書目録集(二)	
身延朝師本御書目録	

第八八号 昭和一〇(一九三五)年七月

法華經題釈の変転	望月 敏厚
再び一念三千の法体と行法を論ず	山川 智応
曾谷入道殿許御書に示されたる五義	鈴木 一成
初期の支那仏家人名考	布施 浩岳
近江石塔寺の調査	石田 茂作
所謂中古天台の関東伝播に就いて	石 慈弘
十卷道行般若訳者考	岩間 湛良
昭和十年度学会誌	
祖書鑽仰史談(第三回)	稲田 海素

第八九号 昭和一一(一九三六)年一二月

仏性論仏陀論より観たる法華経

— 宗義綱領の一節 —

常樂我淨の思想的展開 — 四念住觀に立脚し

ての思想的起源及び開発を主として —

宗歌「たちわたる」の語法・読法の研究

アリストテレスの神に就いて

成仏の意義及びその様態としての菩薩行

祖書鑽仰史談(第四回)

当家法門目安

清水龍山

石川海淨

山上、泉

樺俊雄

安永弁哲

稲田海素

第九〇号 昭和一二(一九三七)年六月

日蓮聖人遺文を対象とする古今の研究法

阿育王の宗教運動とその影響

阿毘達磨に於ける有為相の研究

宗教改革の精神

選択集難文

浅井要麟

木村日紀

坂本幸男

波多野通敏

日乾

第九一号 昭和一二(一九三七)年一二月

法華経の如説修行について

優陀那教学に於ける事觀義提要

— 本尊鈔略要及一念三千論を中心として —

望月敏厚

中谷良英

道安録の原型

初期宗学思想史上に於ける日隆上人の宗学

教団の社会団体的特徴

伝教大師の教学より見たる日蓮聖人の教学

十二門註疏考

岩間湛良

執行海秀

久保田正文

塩入亮忠

清水龍山

第九二号・立正大学創立三十五周年記念特輯

昭和一二(一九三八)年六月

興門教義に対する一研究 — 本尊鈔に於ける

「本門釈尊」と「地涌千界」及本尊図面に

於ける「日蓮花押」に就いて「宗祖本仏本

尊」の謬を匡す —

日蓮聖人大曼荼羅に於ける国神勧請の座配

慧檀両流と日蓮聖人の教学

— 祖書学上の一課題 —

日蓮聖人の時に對する觀念

蓮華三昧經に就いて

大乘仏教の綜合統一運動と秘密仏教

後分涅槃經の事々考覈

因中有果論に就いて

朱子と張南軒

遠州本興寺の古本法華経に就いて

「祝詞と三礼」続補

清水竜山

望月敏厚

浅井要麟

守屋貫教

石川海典

木村日紀

布施浩岳

山本快龍

山口察常

石田茂作

林古溪

大崎学報総目録

日蓮聖人と佐久間象山  
未開人の夢

藏文法華經註釈について

大崎学報総目録 自創刊号至九十一号

波多野通敏  
及川真学  
渡辺瑞厳

第九三号 昭和二三(一九三八)年一二月

最蓮房賜書管見

大念處經解題

日蓮聖人遺文の語法と『文法上許容事項』との関係

伝教々学に於ける華嚴教学に就いて

—真如思想を中心として—

法華經真読考

小林是恭  
石川海浄

山上、泉

林宣正  
田中喜久三

第九四号 昭和一四(一九三九)年七月

中山祐師の聖教録管見(一)

撰大乘論の仏二十一種の功德と華嚴經との関係

清弁造・藏文「小乗十八部分派解説」訳註

A brief sutudy in the hisutory and

doctrines of the Nichiren-Sect Sandi-Yayana Rastupal

小林是恭

坂本幸男  
渡辺瑞厳

第九五号 昭和一四(一九三九)年一二月

仏成道に現はれたる法華本迹及び事理の思想

と日蓮聖人の法華經觀

中山祐師の聖教録管見(二)

彦琮録と静泰録

日蓮聖人の教判に於ける教觀の問題について

第九六号 昭和一六(一九四一)年五月

一念三千の組織構成と三世間

日蓮聖人の道德に就て

大乘涅槃經異本考

国文学上に於ける拾遺集初出『釈教歌』の

地位

本尊口伝相承書の研究

第九七号・復刊記念号・日蓮宗教学

研究大会紀要第二集

昭和二五(一九五〇)年六月

大崎学報の復刊に際して

日蓮聖人の成仏觀 —安心の体系—

法華經成立の一考察

日蓮聖人と歌考

木村日紀

小林是恭

岩間湛良

執行海秀

清水竜山

小林是恭

布施浩岳

山上、泉

執行海秀

望月敏厚

鈴木一成

塩田義遜

山上、泉

本仏の属性 — 宗義解説に就ての一試論 —	安永弁哲
本門仏立宗教教学の研究	執行海秀
日蓮宗上代の伝導方策	宮崎英修
— 埴谷妙宣寺日英の置文を中心として —	
認識可能性に関する外学派と仏教との論争	坂本幸男
(上)	野村耀昌
健陀羅仏教文化私考(其一)	中村瑞隆
三宝と如来蔵に関する考察	戸田浩暁
中国倫理学史の時代区分について	小林是恭
春応日述に就て	
親鸞教学の進展を論じて本宗布教の再検討を冀ふ	清水学励
法華教相の重要性	綱脇竜妙
二乗作仏に就て	長井弁順
一念三千の哲学的限界	中野文隆
— 理体事用より事体理用への論理 —	長谷川正徳
イデオロギー論と宗教的真理	
芸術としての法華経	細井友晋
— 主として宮沢賢治の宗教観について —	森川博祐
修法教学の樹立は可能なりや	石川教統
宗教的個性形成の課題	鴨宮英迅
根本宗学上より唱題往生論を提唱す	斉藤竜遵
一代五時の徹底と「いのり」の宗学	

大崎学報総目録

護法唯識説に就いて	勝呂昌一
永遠の過去より久遠の未来に到る迄永久の現代として必要なる当家の基本宗学	竹田日濶
本門本尊の様式と其主体	中谷良英
相性体の三如是に就て	松野顕佑
教行双転の布教実績に就て	湯川日淳
信の系統について	渡辺日宣
第九八号・日蓮宗教学研究大会	
紀要第三集 昭和二六(一九五二)年七月	
日蓮聖人の成仏観(二) — 安心の体系 —	鈴木一成
最蓮房について	影山堯雄
開目抄の伝承と乾師本の価値について	宮崎英修
日蓮聖人における『謗法』といふことについて	茂田井教亨
健陀羅仏教文化私考(其二)	野村耀昌
空の一考察	勝呂勝一
浄土に対する一般的省察	田村芳朗
— 日蓮聖人の浄土観 —	石川教統
開宗前の宗祖の宗教思想 — 信の限界 —	室住一妙
現代宗学の基本問題	森川博祐
本宗教義欠陥の反省	高木大幹
体験の仏教序説	長谷川正徳
現代における教学の問題	

現代の苦悩と法華經の救済原理

無作三身と三軌妙法秘藏

方便品の方便と眞実

法華經と眞宗

法華經に於ける苦觀に就て

一尊四士正境必定論

因果論の一考察

小林・中野両氏を批判し

一本尊鈔の信行往成 法行成仏を論ず

法華經の觀門について

立正安國論撰述の月について

浦上芳武

河合陟明

長井弁順

綱脇竜妙

浅井円道

竹田日濶

里見泰穩

鴨宮英迅

中野文隆

小林是恭

四種本尊相關考

宗教と国家の問題 ―日蓮聖人の国家觀

第一〇〇号

昭和二八(一九五三)年一〇月

宗祖に帰れ

五綱中「師判」より眺めたる常不輕菩薩と

宗祖との關係

仏身思想の源流に就いて

わが宗御本尊の形式の変遷に就いて

房山石刻法華經 ―二十八品を具備した現行本

最古の完本遺品として知られる法華經について

高佐貫長

田村芳朗

石橋湛山

浅井円道

石川海浄

影山堯雄

兜木正亨

木村日紀

坂本幸男

執行海秀

鈴木一成

# 第九九号・望月先生古稀記念特集号・

## 第四回教学大会紀要

昭和二七(一九五二)年七月

日蓮宗教学の一断面

―本因果妙論を中軸として―

本迹論と日蓮宗の分派

不輕菩薩の破戒とその意義

教相と觀心

普賢行願と題目

歴史形成力としての宗教

体験の仏教

望月歆厚

望月歆厚

浅井円道

浦上芳武

塩田義遜

芹沢寛哉

高木大幹

展開(一)

日蓮聖人花押の変化に就て

―遺文系年推定の資料として―

仏性院日奥に就いての覚書

―不受不施史研究断章―

入一切仏境界經に就いて

冒頓時代に於ける匈奴の版図

鈴木一成

高木豊

中村瑞隆

野村耀昌

常樂經師系の法難記

羅什三蔵伝訳の労苦を偲ぶ

天保年間における鼠山感応寺の興廃

十地経論伝訳小論 ―「有不二不尽」と

「定不二不尽」について―

日蓮聖人に於ける「時」の自覚

西藏に於ける印度支那両仏教交渉の一齣

―テソンデツエン王治下に於ける両国僧侶

の法論について―

法華経に於ける中心観点の移行の問題

第一〇二号 昭和二九（一九五四）年七月

高橋入道と妙心尼

法華付嘱の意義 ―菩薩法の視点より―

アティシャの入蔵と其の功罪

日蓮聖人教学の思想史的研究の一考察

―特に中古天台教学を背景として―

ケルン氏の法華経観（その一）

法華経の二乗作仏の平等説に就いて

五仏性について

日蓮（真正）仏教学の本質と課題について

開宗の月について

開本両抄比重論評 ―表裏一体を主張す―

長谷川義一

布施浩岳

宮崎英修

村田常夫

茂田井教亨

矢崎正見

渡辺日宣

鈴木一成

鈴木一成

布施浩岳

矢崎正見

執行海秀

浅井円道

上田本昌

浦上不軽

大嶋忠雄

小林是恭

小藤竜遵

齊藤竜遵

日隆教学の方法

日蓮聖人に於ける仏と法との関係

―本尊の問題―

基督教の開頭と教団の革新

法華経を解剖して本尊の実体を後し眞実宗教を宣明す

一闍提成仏論

純粹宗学における主体性

大崎学報総索引（自創刊号〜一〇〇号）

第一〇二号・創立五十周年記念号

昭和二九（一九五四）年一〇月

巻頭言

日蓮聖人曼荼羅図集

日蓮聖人消息花押集

第一〇三号 昭和三〇（一九五五）年六月

日蓮聖人晩年の健康をめぐって

忠尋の止観超克思想

世親唯識三十頌の解釈

存在把握の能統一としての「信」について

法華経の仏陀観

進歩宗学とは何ぞや

芹沢寛哉

田村芳朗

高木大幹

綱脇竜妙

長井辨順

室住一妙

望月敏厚

山中喜八

鈴木一成

望月敏厚

山中喜八

鈴木一成

宮崎英修

浅井円道

勝呂信静

塚本啓祥

浦上不軽

森川博裕

森川博裕

森川博裕

森川博裕

法華經の常不輕菩薩品と現代

承久時四帝配流と記す祖書

宗祖の主体性を究明するについての方法的考察

—伝記の扱い方—

恵心の真如種子説について

日蓮聖人の天災観に就いて

現代に於ける日蓮批判の諸相

日蓮宗僧侶の社会的態度

—近江絹絲争議の場合—

観本抄要文御聖意信解

朝題目と夕念仏

漢光類聚鈔製作年代考

ヤージュニャヴァルキヤ (Yajñavalkya) の

唯心論

日本教学再建の構想

—本門戒壇との関連に於いて—

実践宗学としての如来行

鎌倉・京都・江戸の寺院について

宝性論の梵漢対照

## 第二〇四号・本尊特集

昭和三〇（一九五五）年一二月

日蓮聖人の本尊について（前編）

綱脇竜妙

小林是恭

室住一妙

河村孝照

上田本昌

田村芳朗

沼義昭

竹田日濶

塩田義遜

日比宣正

村田常夫

高木大幹

有光友逸

影山堯雄

中村瑞隆

祖書に示されたる本尊の種々相

御本尊造像史

本尊抄の本尊の主要形態

宝性論の梵漢対照

## 第二〇五号・影山堯雄先生古稀記念号

昭和三一（一九五六）年一〇月

不受不施思想について

日蓮上人の不受不施思想

仏性院日奥上人略伝

仏教学より見たる奥師の思想

不受不施者の信仰形態 特に仏性院日奥の場合

安国院日講上人の研究 不受不施研究の一断面

不受不施の法難並に流僧生活について

不受不施派の組織とその展開

—三宅島善勝庵過去帳に見る—

寛文法難前後 —不受不施史研究断章—

内証題目講の研究

—常楽院日経門流の殉教史—

不受不施年表

竜華掃苔録

鈴木一成

影山堯雄

小林是恭

中村瑞隆

望月歆厚

鈴木一成

宮崎英修

坂本幸男

茂田井教亨

執行海秀

影山堯雄

宮崎英修

高木豊

山口智光

川澄勲

日学

日蓮聖人の国土観に於ける特色  
法華経の仏陀観  
護教について

如来行に顕われたる主師親三徳  
悪人正機説と天台本覚思想との関連  
日蓮教学とカント哲学との思想的交渉

法雲と智顗  
注法華経の御所引と御義・向記並に金綱集との関連について  
唱題三昧の発趣相に就いて

宗学上における叡智性の問題

第一〇六号 昭和三二(一九五七)年六月

本尊抄解釈の問題

―特に「観心」について―  
木下尚江の「日蓮論」  
如法経雑考

宝性論の梵漢対照

第二〇七号 昭和三二(一九五七)年二月

日蓮聖人の曼荼羅について

―特に本尊との関係に於て―

神天上勘文考

上田本昌

浦上不軽

芹沢寛哉

水谷竜人

田村芳朗

森川博裕

塩田義遜

山中喜八

湯川日淳

室住一妙

茂田井教亨

高木豊

兜木正亨

中村瑞隆

執行海秀

鈴木常耀

竜華掃苔録(二)

法華玄義の三諦説に就いて

突厥族の発祥地と其始祖に就いての考

宝性論の梵漢対照

第一〇八号 昭和三三(一九五八)年六月

身池対論記について

優陀那和尚の宗学する態度

称名思想の根底とその帰結

「靈鷲山」の語義

如来行に顕われたる三大誓願

近世初頭における仏耶の交渉に就いて

注法華経と金綱集との関係について

宗祖の真言相伝に就いて

本尊問答抄に就いて

地論師の教判について

中国における宗教意識について

新興宗教団体の布教活動について

六牙潮師と川邑禪師について

般若経の三乗について

聖祖の安然観に対する一考察

法華経の神力について

釈山日新学

小比宣正

日村耀昌

野村瑞隆

中村瑞隆

宮崎英修

浅井円道

塩田義遜

布施浩岳

水谷竜人

妹尾啓司

山中喜八

塩田義遜

小林是恭

村田常夫

町田是正

上田本昌

秋山智孝

稻荷日宣

清水竜淵

望月海淑



妙法大曼陀羅の図表研究によって明かにされ

た中尊型式の変化

日蓮聖人の社会思想の性格

根本仏教と法華経

曼荼羅及び一塔兩尊の本尊について

宝性論の梵漢対照

松本佐一郎

大嶋忠雄

浦上不軽

竹田日濶

中村瑞隆

法華経の虚空について

日鏡上人と西谷檀林

法華曼荼羅と無量寿決定如来

天台の十如と華嚴の六相

有部教学に関する二三の問題

日蓮聖人と自然崇拜

将来の寺院に於ける本尊の奉安形式

身延文庫所蔵恵心流七箇法門口伝文献について

望月海淑

林是幹

塩田義遜

村田常夫

河村孝照

上田本昌

竹田日濶

一闡提思想について

草木成仏について

南北朝時代における仏道論衡の三説話

注法華経私考

重・乾・遠三師の教学について

―その日蓮宗教学史における意味―

仏教とプラグマティズムとの比較研究への

一考察

宝性論の梵漢対照

石川海浄

坂本幸男

内藤竜雄

山中喜八

渡邊寶陽

生田観周

中村瑞隆

本尊抄解釈の問題

―題号の観心を中心として―

法体勝劣論の考察

法華版経の研究補遺

法華経嘱累品について

天台の縁起思想に就いて

田村完誓

芹沢寛哉

中村瑞隆

## 第二二二号 昭和三五（一九六〇）年二月

## 第二一〇号 昭和三四（一九五九）年六月

身延山御書系年考

―身延霊山思想の展開を根拠として―

仏教と有神論

「ダライラマ制」に対する一試論

鈴木一成

勝呂信静

矢崎正見

## 第二一二号 昭和三五（一九六〇）年二月

京都に於ける日蓮教団寺院

―寺院の移動位置を中心として―

影山堯雄

茂田井教亨

浅井円道

兜木正亨

田賀竜彦

日比宣正

二明王と曼荼羅

田中智学居士の行蹟とその教学

伊犁放棄より嬌水北岸に到る迄の月氏の動向に就ての考(一)

中世における中山法華經寺教団の展開

地論師の阿梨耶識生法説に対する天台の批判

御遺文に引用されたる涅槃經をめぐる二、三の問題

稟権出界抄の系年について

現代の指導原理としての法華經

日蓮聖人の北条幕府に対する政道批判について

G. Renondeau La Doctrine de Nichiren について

観心本尊抄題号釈

立正安国論の「国」の字と御書風

自己批判の問題点

―純粹宗学の問題学的素描―

四仏知見より四句の要法へ

部派研究の資料としてのインスクリプション

### 第一一三・一一四合併号

昭和三八(一九六二)年一二月

日蓮宗の開帳と縁起

小林是恭  
塩田義遜

野村耀昌

中尾堯

成川文雅

岡田栄照

山中喜八

浦上芳武

上田本昌

田村完誓

竹田日濶

神部宣雄

室住一妙

木村日紀

塚本啓祥

高木豊

注法華經と御書とに共通する引用經釈  
唯識説における無我の問題  
チベット仏教の一特色

―活仏思想を中心として―

法華經を中心とした授記の研究

倫理にかかわる宗教の積極的意義

日蓮聖人に於ける信仰の倫理

倫理の根拠としての法華經

宗教と倫理の一試論

宗教と倫理 ―宗教と日常への還帰について―

原始仏教の倫理観

二諦説の一考察

禁欲倫理の崩壊と宗教の機能

事理について

仏教説話より観たる法華經思想

地論・天台を通してみた中国仏教の形成

日蓮聖人の「恩」について

宗教教育の教材について

法華經に現われた諸尊勸請

法華經の諸法実相と久遠実成と深敬礼拝の

関連に就て

御本尊脇書集 実成院日典聖人之部

研究手帳 禅那院日忠師と成田妙福寺

山中喜八  
勝呂信静

矢崎正見

田賀竜彦

江川義忠

河野智彰

芹沢寛哉

高橋堯昭

長谷川正徳

近江幸正

丹治昭義

岡田栄照

室住一妙

三瓶顥厚

成川文雅

上田本昌

秋山智孝

木村日紀

綱脇竜妙

安藤長象

加川治良

日蓮宗章疏目錄書名索引

渡邊寶陽

日蓮宗章疏目錄書名索引

渡邊寶陽

第一一五号 昭和三七(一九六二)年二月

時間論覚え書 —特に「ミリンダの問」

「中頌」とその釈、及びアビダルマへの

連関に於て—

金倉円照

本尊論の根本問題

—特に靈断教学の所論を中心として—

執行海秀

法体勝劣論の考察(再)

浅井円道

ミリンダ王問経後分成立地方について

市川智康

四教略名目 (未刊聖筆要文集の一)

山中喜八

日蓮宗章疏目錄書名索引

渡邊寶陽

第一一六号 昭和三八(一九六三)年七月

本尊の原理と形態

茂田井教亨

下山抄の御真蹟について

—新発見の断簡二葉—

宮崎英修

妙法華の第一断層を掘り下げる

稲荷日宣

伊梨放棄より鳩水北岸に到る迄の月氏の動向

に就ての考(二)

野村耀昌

会津妙法寺日尚門流信徒の展開

—特に常源院日進(行進)に就いて—

中村孝也

四教略名目 (未刊聖筆要文集の一)(二)

山中喜八

第一一七号・鈴木一成教授追悼号

昭和三八(一九六三)年二月

鈴木一成先生略年譜

鈴木一成先生著述論文目録

弔辞

鈴木一成君の追憶

御遺文と鈴木教授

鈴木先生を思う

お袂れの言葉

鈴木一成師の憶出

鈴木一成先生の祖書学について

かばやき

変らざる人

鈴木一成先生を偲ぶ

畏友鈴木一成上人の遷化を悼む

如来蔵経考

荊溪湛然の事蹟に就いて

近世初頭における法華宗管見

—キリシタン宣教師の報告書をめぐって—

可観院日延の研究

金子弁浄

望月歆厚

坂本幸男

影山堯雄

稲荷日宣

長井弁順

執行海秀

宮崎英修

桜井良策

上田本昌

藤井教詮

中村瑞隆

日比宣正

妹尾啓司

高崎慈郎

秘書要文・華嚴法相三論天台等元祖事

(未刊聖筆要文集の二)

宗教的平和論の構造

宗教者は平和の使徒たり得るか

— 既成教団の限界内に於て —

平和運動における宗教者の理念と実践

平和と仏教

日蓮宗の立場から見た平和の理念

マガダ王統史考(一)

第二一八号 昭和三九(一九六四)年一〇月

大英博物館蔵・心性第十二度版法華經

五義判の形成課程の考察

— 五義の発表まで —

優陀那日輝の著述とその成立

— 「一念三千論」以前の著述を中心に —

天台肝要文集(上) (未刊聖筆文集の四)

マガダ王統史考(二)

第二一九号 昭和四〇(一九六五)年六月

東晋・南朝における北来流民の流亡形態(一)

弁中辺論 (Madhya-ntavibha-ga) における

玄奘訳と真諦訳との思想的相違について

大崎学報総目録

山中喜八

都守健二

三田村竜全

近江幸正

堀一勇

執行海秀

塚本啓祥

兜木正亨

浅井円道

渡邊寶陽

山中喜八

塚本啓祥

野村耀昌

勝呂信静

日蓮聖人教学と智証教学の思想的連関

阿仏房夫妻の史伝についての考証

本理大綱集等要文 (未刊聖筆要文集の五)

日隆聖人の寿量本仏観

日真上人の教学 — 本果実証の題目 —

日陣聖人の教学とその伝統

— 本迹論を中心として —

顕本教学の高風

観心本尊抄における本尊義について

「日蓮教団全史」(上) 刊行の経過

第二二〇号 昭和四〇(一九六五)年一〇月

別理随縁説の形成過程

添品妙法蓮華經考

近世初期日蓮宗出版史の一考察

八品派本山 鷲山寺関係文書

双紙要文 (未刊聖筆要文集の六)

マガダ王統史考(三)

(寛永年度) 寺院本末帳

第二二二号 昭和四一(一九六六)年七月

妙法蓮華經『見』字訓読考

方便品寿量品送状について

小松邦彰

河野智彰

山中喜八

株橋諦秀

林真芳

水本大岳

吉田通俊

茂田井教亨

望月歆厚

日比宣正

佐々木孝憲

冠賢一

中村孝也

山中喜八

塚本啓祥

戸田浩暁

浅井円道

承久三年十五壇法について

一代勝劣諸師異解事

恒河七種衆生事

迦葉付属事

破禅要文（未刊聖筆要文集の七・八・九・十）

日扇聖人の下種教学に就いて

歴史の課題と教学 — 国柱会の過去と現在 —

三大秘法抄管見 — 自行化他にわたりて

南無妙法蓮華経なり —

敦煌壁画の飛天について

初期大乘仏教における菩薩の宗教生活

— 郁伽長者経を中心として —

近世初頭における日蓮宗門の展開

— 備前国の場合 —

細草檀林考

輝師の一念三千論の問題点

日蓮教学と一凶思想

五蘊説と阿頼耶識の確立について

— 世観の五蘊論を手掛かりとして —

撰大乘論釈に説かれる仏国土と菩薩との関係

について

鳩摩羅什の Kashmir 遊学の帰還路について

本多日生師の教学と学的系譜

宮谷檀林所伝文書の一考察

— 日興門流に就いて —

明和法難につて

山梨県における日蓮宗史料調査報告

The Guilt and Purification on

the Concept of Evil Buddhahood

Guilt and Purification Rites in Tendai Buddhism

Hibi Nobumasa  
Sakamoto Nichijin Yukio

天台に於ける罪と懺悔

天台に於ける罪と懺悔

第二二三号 昭和四二（一九六七）年七月

興門初期の分裂と方便品説論

— 五人所破抄の著者について —

本生経類に於ける授記について

— 南伝に於ける授記について —

吉蔵における五乗と薬草喻品・三草二木

『大日本国法華経験記』における持経者像

— その構成要素をめぐって —

敦煌出土 衆経別録 残卷

行忍抄（未刊聖筆要文集の十一）

諸要文集（未刊聖筆要文集の十二）

要文双紙（未刊聖筆要文集の十三）

真言経等要文（未刊聖筆要文集の十四）

中村孝也

加川治良

中尾 堯

山梨県における日蓮宗史料調査報告

The Guilt and Purification on

the Concept of Evil Buddhahood

Guilt and Purification Rites in Tendai Buddhism

Hibi Nobumasa  
Sakamoto Nichijin Yukio

坂本幸男

天台に於ける罪と懺悔

第二二三号 昭和四二（一九六七）年七月

興門初期の分裂と方便品説論

— 五人所破抄の著者について —

本生経類に於ける授記について

— 南伝に於ける授記について —

吉蔵における五乗と薬草喻品・三草二木

『大日本国法華経験記』における持経者像

— その構成要素をめぐって —

敦煌出土 衆経別録 残卷

行忍抄（未刊聖筆要文集の十一）

諸要文集（未刊聖筆要文集の十二）

要文双紙（未刊聖筆要文集の十三）

真言経等要文（未刊聖筆要文集の十四）

成仏論に於ける二つの問題  
成仏否定の諸論からみた日蓮教学

日蓮教学における成仏論の展開

即身成仏義

『立正安国論』広本の位置について

常楽院日経門流の組織と信仰統制

下総における内信寺の問題

蓮華について

宗学の論理と表現

祖師観 ―文学からのアプローチ―

涅槃経の戒について

法華経々題の英訳名について

真諦の阿摩羅識について

八十三世紀における仏教者の社会的姿勢について

北涼の仏教受容について

元政上人の門下教育

華嚴・如来性起経の成立過程

―その第一段階と法華経との対比―

日蓮聖人の天台教学受容について

本阿弥光悦の法華信仰

近代小説に現れた日蓮聖人

宗祖と慈覚・智証 ―要麟先生への疑義―

### 第一二三号・望月歆厚教授追悼号

昭和四三(一九六八)年六月

宗学各論

望月歆厚先生神応院日電上人略年譜

望月歆厚先生著述論文目録

望月歆厚先生御本葬の記

歆徳文

弔辞

弔辞

訣別の辞

弔辞

弔辞

弔辞

弔辞

弔辞

前会長之高風を慕う

弔辞

弔辞

弔辞

弔辞

弔辞

望月歆厚先生を惜しむ

望月 歆厚

藤井 日静

及川 真学

片山 日幹

坂本 幸男

山田 霊林

沖田 鳳亀

笹津 海学

三友 順

荒木 義栄

植木 泰山

沙門 日幢

松村 寿顕

塩部 和一

本覚寺総代

池谷 良仁

綱脇 竜妙

神応院日電上人の遷化を哀悼す

望月先生を追憶す

望月先生の思い出

望月歆厚博士を憶う

望月博士を偲ぶ

滝谷妙成寺開山堂宗祖木像と日護上人

望月先生を偲ぶ

望月歆厚先生を弔す

望月先生を偲びて

望月歆厚老先生を悼む

望月先生を偲びて

真人の真知

望月歆厚先生を想う

悼 望月歆厚先生

宗学論について

最後の課題

慈眼と温顔を偲ぶ

偉大な指導者を失って

望月先生と「法華」

望月先生の宗学

本覚寺開山日出上人と先生

終戦前夜

先生とわたし

遠藤是妙

斎藤見是

影山堯雄

稻荷日宣

大場日雷

昇塚清研

笹津海学

沖 鳳 亀

久保田正文

波多野通敏

武越慈寛

石川存静

金子日威

宮崎海優

室住一妙

茂田井教亨

岩間湛良

伊藤勝淳

兜木正亨

執行海秀

宮崎英修

野村耀昌

佐藤智雄

思い出すままに

谷山ヶ丘の生命「望歆先生」

望月先生追憶断想

望月歆厚先生と私

望月先生を偲んで

望月歆厚先生の思い出

遺徳を偲んで

望月先生を偲ぶ

終焉の日

望月歆厚先生の御講義

## 第二二四号・執行海秀教授追悼号

昭和四四（一九六九）年六月

執行海秀先生海秀院日学上人略年譜

執行海秀先生著述論文目録

歎徳文

弔辞

執行教授についての思い出

執行さんのことども

執行先生追悼詞

故執行教授のおもかげ

浅井門下の逸材 執行先生

未だ其の止まるを見ざるなり

勝呂信静

米田淳雄

浅井円道

高木豊

田賀竜彦

上田本昌

日比宣正

渡邊寶陽

小松邦彰

冠 賢 一

影山堯雄

坂本日深

影山堯雄

茂田井教亨

室住一妙

桜井良策

宮崎英修

戸田浩暁

執行海秀教授追悼の記  
執行先生との出会

執行教授思い出の一端  
異友執行君の心情を懐う  
そのころ

思い出すままに

執行先生の急逝を悼む

執行先生を偲ぶ

執行先生の葬儀に出席して

執行先生を憶う

執行先生を悼む

執行先生を偲んで

霊跡参拝旅行

大乘諸経論にあらわれた阿蘭若住の問題

『衆経別録』の目錄学的研究(上)

三沢檀林関係資料集

題目板碑と像師配流地

東大寺所藏法華経関係貴重文献目錄

## 第一二五・一二六合併号・

## 聖誕七五〇年記念特輯号

昭和四五(一九七〇)年七月

聖誕七五〇年記念特輯号に寄せて

大崎学報総目錄

坂本日深

三瓶顥厚	日蓮聖人の戒思想について	影山堯雄
洪沢文景	日蓮聖人の本尊観	勝呂信静
阿部直義	日蓮教学における「教」の位置と構造	茂田井教亨
鴨宮成介	日蓮聖人における「三仏」帰命	渡邊寶陽
野村耀昌	宗祖と五大院安然	浅井円道
勝呂信静	守護国家論の一考察	小松邦彰
浅井円道	日蓮聖人画像について	坂輪宣敬
高木豊	波木井殿御報「常陸の湯」について	宮崎英修
日比宣正	日蓮宗の和讃について	冠賢一
渡邊寶陽	中世日蓮宗伝道の一形態	
上田本昌	―下総国千田庄を中心として―	松村顕
小松邦彰	遺文の写本について	高木豊
冠賢一	破邪顕正記とその破書について	丹治智義
望月良晃	須摩提菩薩経について	金倉円照
内藤竜雄	種論と仏子	中村瑞隆
村上東彦	カウティルヤ『実利論』とアショーク法勅の 関係	塚本啓祥
中井亨頂	ブドガラ輪廻論と有部業論との一考察	三友健容
	趙宋天台における両重能所観の形成	日比宣正
	法華読誦の音と版経の音と点について	兜木正亨
	第九地について	
	―dharma-bhanakaの理想形態―	伊藤瑞叡
	身延宣言と実践の論理	坂本日深



大崎学報総索引 (自一〇一号〜一二四号)

第一二七号・坂本日深教授追悼号

昭和四八(一九七三)年一〇月

法華仏教の特質 坂本日深先生遺稿

坂本日深

坂本日深先生年譜・論文目録

坂本日深先生年譜・論文目録

坂本日深先生御本葬の記

歎徳文

弔辞

弔辞

弔辞

弔辞

弔辞

弔辞

弔辞

坂本博士誄詞

坂本幸男博士の追想

坂本日深先生の思い出

坂本幸男博士の思い出

ああ!坂本先生

俱舎論に憶う

坂本先生を偲んで

坂本先生のことども

走馬灯四十年

先生のことども

日円上人のお弟子となるまで

(「日円上人余香」より再録)

愚兄賢弟

坂本先生の思い出

坂本先生と私

坂本先生を偲ぶ

在りし日の坂本先生

仏教学への情熱

先生と国訳一切経

欧米旅行に随行して

坂本日深博士と法華経文化研究所

法華経文化研究所と坂本先生

オタワ世界連邦大会の思い出

坂本先生をしのぶ

坂本先生を偲ぶ

御遺文辞典と坂本先生

先生のおもいで

先生をしのんで

宮崎英修

野村耀昌

林是幹

坂本日深

石原照山

勝呂信静

浅井円道

高木豊

塚本啓祥

渡邊寶陽

佐々木孝憲

日比宣正

辻直四郎

中村瑞隆

藤井教雄

河村孝照

丸山孝雄

小松邦彰

冠賢一

坂輪宣敬

第二二八号 昭和五一（一九七六）年三月

日蓮教学における「教」の位置と構造（二）  
教によって選択された「教」

宗祖対法然房

『開目抄』『撰時抄』『報恩抄』の分巻をめぐって

— 日蓮遺文の書誌に関する試論の一つ —

アショーク王碑文雑考

『日蓮聖人註画讃』の絵師窪田統泰について

楞伽經の如来藏思想について

— 特に刹那品を中心にして —

第二二九号 昭和五一（一九七六）年二月

瑜伽論の成立に関する私見

日蓮聖人引用経論の研究（二）

— 聖人教学形成の背景 —

靈鷲院日審の法華経談義

日蓮聖人における「寿命品の仏」について

アビダルマ仏教における無表業論の展開（二）

日蓮聖人における謗法観

— 道元禅師との比較において —

三大秘法抄私見 本門戒壇を中心として

茂田井教亨  
浅井円道

高木 豊

塚本啓祥

坂輪宣敬

清水要晃

勝呂信静

小松邦彰

冠 賢一

北川前肇

三友健容

有村友伸

本間裕史

日蓮聖人における「受持」の問題

— 天台本覚思想との関連 —

慶林院日隆の顕本論について

富山藩神仏分離の一考察

貞松蓮永寺所蔵法要次第及び声明墨譜について

日蓮聖人の三大秘法鈔について

日蓮聖人の布教について

一尊四士と一塔二尊四士に就て

開目抄について

玉鳳宸翰に観る法華品釈について

版経異体字研究（序）

「分身」考

綱要導師における首題と観心について

是真仏子

日蓮聖人と説話

日蓮聖人における信と行

優陀那日輝の教学的背景

観心本尊抄始頭法門の研究

法華経第二章に於ける一、二の問題

本門と迹門

庵谷行亨

北川前肇

宮内武範

早水弁静

窪田哲城

石川教張

早瀬公人

岡田栄照

田久保顕悠

有賀要延

荻谷定彦

本田栄秀

室住一妙

佐藤行宏

宮淵泰存

小野文琬

山口晃一

三友量順

芹沢寛哉

第二三〇号 昭和五一（一九七七）年二月

日蓮教学における「時」の問題

茂田井教亨

吉蔵の仏身観

日本仏教文化史研究序説

『観心本尊抄』受持譲与段について

―その論理過程についての一考察―

『開目抄』写本の書誌的考察

―その論理過程についての一考察―

立正大学図書館新収韓国海印寺伝来版本目録

ならびに解説

丸山孝雄

伊藤瑞叡

庵谷行亨

梅本光祥

西村宣侑

宮崎英修

茂田井教亨

小野文珖

### 第一三二号・日蓮宗教学研究発表大会

第三十回記念号 昭和五三(一九七八)年九月

日蓮教団史研究の課題

宗学研鑽上の課題

日蓮聖人の仏種思想

上総新門徒法難の裏面的考察

―東西信徒の分立とその消長―

日蓮聖人の法華経功德論

京都の妙見信仰

八品派と富士派の交流(室町期)

飯高檀林の一年

新尼御前御書に顕れる本尊について

常楽院日経上人伝について

了義院日達上人伝について

―智朗賢師述先師伝を中心として―

堀之内祖師信仰について

受持と法華経色読の意義

―親鸞書簡を参照しつつ―

日蓮宗の講式声明について

―型態上の特色を中心にして―

最澄著作にみえる二つの記述

―日蓮聖人と関連して―

近世インド文化史におけるカビールの位置

について

日蓮聖人における塵点義について

徳川齊昭(烈公)の本宗暴圧と捨身護法の諸師

日蓮大聖人の本尊観の会通

法隆寺伝来細字法華経の諸問題(二)

―書風と写経史的位置―

関西諸檀林の興廃について

「日眼女釈迦仏供養事」考

宝田日雄

庄司寿完

西片元

下宮高純

高橋謙祐

岩田良三

北川前肇

高崎宣亮

早瀬公人

有賀要延

松村寿巖

上田本昌

伊藤瑞叡

### 第一三三号 昭和五四(一九七九)年三月

推古朝における仏教と仏教統制、および両者の

の関係について

日蓮聖人の一念三千について

—『観心本尊抄』をめぐる—

本妙日臨律師の研究

日蓮聖人の安心感(二)

日蓮宗の十種供養式

—講式との関連性について—

行学院日朝の仏身観

—中古天台思想との関連において—

不受不施派日指・津寺分派の源由

「法華三部経章句索引」異体字表について

能勢地方における日蓮教団の展開(2)

—無漏山真如寺について—

本門本尊論—特に本妙日臨以後

法華経における地涌菩薩の戯曲的表現と

仏教思想的意義

十界構造論

上総宮谷檀林に於ける什門陣門の交流

宗派仏教の真実と虚構

事一念三千論の一考察

無住の謗法観『沙石集』を中心として

日蓮聖人の釈尊観

日蓮聖人の仏種思想(二)

日蓮聖人の「三五の二法」について

「教主釈尊」について

立正大学図書館新収「韓国海印寺伝来版本」

目録ならびに解説

### 第一三三号・兜木正亨教授追悼号

昭和五五(一九八〇)年三月

敦煌法華経概説

兜木正亨先生年譜

兜木正亨先生年譜・論文目録

歎徳文

弔辞

弔辞

兜木 正亨先生誄詞

兜木先生の思い出

思い出すまに

死処を得た者

日蓮聖人の教観二門に関する一試論

『撰大乘論世親訳』における真諦訳と笈多訳

の関連について

三性説小論

渡邊 寶陽

西村 宣侑

兜木 正亨

一厚院 日悠

菅谷 正貫

松村 寿顕

塚本 啓祥

中村 瑞隆

勝呂 信静

戸田 浩暁

北川 前肇

岩田 諦静

下川 辺季由

第一三四号 昭和五六（一九八一）年三月

新成顕本論をめぐる問題

― 寿量顕本解釈の一断面 ―

『瑜伽師地論』の心所法

― 特に不定心所について ―

東南アジア諸国と仏教学に対する中国の研究

― その回顧と展望 ―

法華経の adhimukti

北川 前肇

清水 海隆

季 羨林

久留宮 円秀

第一三五号・日蓮聖人七〇〇遠忌記念特輯号

昭和五七（一九八二年）一月

日蓮聖人第700遠忌特輯号に寄せて

観心本尊得意抄の真偽論

〈二人の日蓮〉改稿 ― 金沢文庫「理性院血脈」

を日蓮伝の史料から除くべき歟のこと ―

金綱集と法華問答正義抄

日蓮教学と基礎教理論について

「三大秘法抄」の諸本について

日蓮聖人の師自覚について(2)

神力品結要付属考

法華一乘思想形成の文化史的基盤

― 統一の論理と実践 ―

渡邊 寶陽

宮崎 英修

高木 豊

浅井 円道

日比 宣正

冠 賢一

庵谷 行亨

伊藤 瑞叡

塚本 啓祥

一闡提と法華経の成立

― 渡辺照宏博士説の批判 ―

バイローチャナ・ラクシタの宝性論註

― 智光明莊嚴経から引用の九喻について ―

唯識説における縁起の思想

― 『瑜伽論』本地分の所説を中心にして ―

ラダックにおけるチベット仏教の特色

― その紅帽派的色彩について ―

望月 良晃

中村 瑞隆

勝呂 信静

矢崎 正見

第一三六号 昭和五八（一九八三）年三月

教機時国抄の大日仏陀

― 大日仏陀と大日仏地 ―

宗祖における一法門の異表現

片岡随喜居士の御真蹟蒐集について

無作三身について

― 中古天台教学と日隆教学との比較において ―

宮崎 英修

浅井 円道

山中 喜八

芹沢 一男

第一三七号・影山堯雄先生追悼号

昭和五九（一九八四）年二月

影山堯雄先生年譜

影山堯雄先生論文目録

歎徳文

弔辞

中村瑞隆

Nichiren's Thought Appearing in the Rissho

弔辞

遠藤日護

Ankoku Ron and Its Acceptance in Modern Age

追悼

宮崎英修

渡邊寶陽

影山先生の御遷化を悼む

渡邊寶陽

Interaction Between Japanese Culture and Buddhism

末法と法華經(一)

庵谷行亨

田村芳朗

日蓮聖人における法華經受容の特色

岩田諦静

発心集の形成と法華經関連の説話

平島盛雄

### 第一三九号・第三七回日蓮宗教学 研究発表大会特集号

日蓮聖人の下種思想に関する一考察

糸久宝賢

昭和六〇(一九八五)年六月

機類の認識を手がかりとして

身延山における日蓮聖人の教学

一三秘を中心として

本興・本能両山六世金剛院日与とその周辺

西谷草庵考

日蓮聖人花押の研究

無性造『大乘經莊嚴広註』和訳(1)

「三大秘法の法力」と「自然界に存在する四力」

との相関について

早瀬公人

求法品第13頌〜33頌

下川辺季由

中古天台における戒勝止観の法門

窪田哲正

### 第一三八号 昭和六〇(一九八五)年二月

三大秘法正義 一 本門の戒壇論

塚田康夫

小川泰堂と智英日明について

石川教張

俱舍論における無表の法相的性格

窪田哲正

近代日蓮主義研究 一 法華会草創期の動向

久住謙是

「異国之難」と天台僧惠尋

下川辺季由

地域社会の変容と寺院問題(一)

石見銀山地域における日蓮宗寺院の興廢

一 日蓮聖人と対比の視点から

求法品第34頌〜52頌

一 島根県寺院調査より

高橋謙祐

無性造『大乘經莊嚴広註』和訳(2)

北川前肇

Characteristics of Nichiren's Interpretation  
of the Lotus Sutra

求法品第34頌〜52頌

久住謙是

Characteristics of Nichiren's Interpretation  
of the Lotus Sutra

高橋謙祐

Characteristics of Nichiren's Interpretation  
of the Lotus Sutra

北川前肇

高橋謙祐

羅什訳『妙法蓮華経』の問題点(2) 「囑累品」

の位置と「化城喻品」という品名について―荻谷定彦

法華経における「開会思想」成立の仏教文化

史的意義 ―法華経成立の主要因を探究― 林 円修

薬王品の一視点

―その火焰をてがかりとして―

『瑜伽論』の戒説について

『法華玄義』釈名段の一研究

発心集における法華経説話について

艸山集雑体詩について

―其の二「示侍童八偈」―

法華信仰と落語

第一四〇号 昭和六〇(一九八五)年二月

法華経成立論史(その一)

真諦訳『撰大乘論世親釈』における変異の

訳語について

日蓮聖人の涅槃経引用

ハワイ大学での法華経研究会議

『瑜伽師地論』の原典研究(Ⅲ)

―意地第2の和訳(その2)―

Development of the Nichiren Sect in Kyoto  
Formation of Monryu or Sub-Sects and  
Their Organization Structure

糸久宝賢

第一四一号 昭和六一(一九八六)年六月

ラダックにおける寺院建立史の背景

法華経成立論史(その二)

中期大乘仏教における菩薩思想について(一)

―『瑜伽論』菩薩地に見られる菩薩思想の考察①―

身延山久遠寺の伽藍について

日蓮聖人における一闡提成仏と仏性

日蓮聖人の食生活について

二十一世紀の社会における仏教

無性造『大乘経莊嚴広註』和訳(3)

―求法品第53頌〜59頌―

On Nichiren's Appropriation of the Truth ジャフィポール

第一四二号 昭和六一(一九八六)年二月

法華唱題の源流と展開

法華経成立論史(その三)

日蓮聖人における一念三千と立正安国

源信『一乗要決』と日蓮聖人(Ⅱ)

矢崎正見  
伊藤瑞叡

清水海隆

井上博文

関戸堯海

目黒きよ

田辺ジョージ

下川辺季由

浅井円道

伊藤瑞叡

庵谷行亨

関戸堯海

第一四三三号・第三九回日蓮宗教学研究発表

大会特集号 昭和六二（一九八七）年六月

身延山と天台山

上田 本昌

小川泰堂の学問のすすめ論

石川 教張

「学問ス、メノ論」について  
『瑜伽論』と『解深密経』における波羅蜜説

の相違点をめぐって

清水 海隆

開目抄における法相学批判について

岩田 諦静

中古天台恵心流における円密勝劣論

窪田 哲正

京都諸本山会合文書について

中尾 堯

『立正安国論』の基礎的考察

高佐 宣長

下種に関する一考察 ―聞法下種論を視点と

平島 盛雄

する仏性論の再検討―

中村 孝也

光松能師と永昌受師の撰折論

山口 晃一

開経偈批判について

有賀 要延

―わかってわからない謗法論―

有賀 要延

艸山集雑体詩における次韻詩・其一

有賀 要延

第一四四号 昭和六三（一九八八）年三月

日蓮聖人における臨終葬送義

松村 寿巖

日蓮聖人の曼荼羅本尊における一試論

―名古屋聖運寺蔵弘安元年曼荼羅本尊を

中心として―

寺尾 英智

京都本法寺蔵長谷川等伯筆「仏涅槃図」に

ついて

望月 良晃

Theraga-tha・Theri-ga-thaにおける業の

形態について

池上 和夫

法華経成立論史（その四）

入菩提行論細疏第九章試訳(1)

塚田 貫康

第一四五号・第四〇回日蓮宗教学研究発表大会特集号

昭和六三（一九八八）年一〇月

永観考 ―源信・法然との対比―

浅井 円道

生命科学の進歩 ―その恩恵と不安―

柴田 寛彦

小川泰堂の自行折伏の建言

石川 教張

―『信仏報国論』の一考察―

林 是晋

身延山と武田信玄

林 是晋

『妙法華』における「大乘」の語について

石川 教張

―羅什訳『妙法華』の問題点(5)―

荻谷 定彦

充治園の教団論

小野 文瑛

中世日蓮教団一外護者の生涯

久住 謙是

―風間信濃守信昭について―

久住 謙是



明治初期日蓮宗の布教活動について

浜島典彦

什祖滅後における直弟の動向

―特に智蔵坊日蓮の規制について―

中村孝也

平清盛の「あっち死」

―真蹟『孟蘭盆御書』の意味―

山口晃一

艸山集雑体詩における次韻詩

―其二和陶淵明柴木詩―

有賀要延

本迹相資と本迹相對

朝鮮半島に於ける法華經傳播について

ベトナム李朝と仏教について

日比宣俊

日蓮聖人の浄土教批判の特質

―『立正安国論』成立についての一考察―

福士慈稔

# 第一四六号・田村芳朗先生追悼号

平成元(一九八九)年十一月

田村芳朗先生略年譜

田村芳朗先生著述論文目録

田村芳朗先生を悼む

田村芳朗先生を偲ぶ

田村芳朗先生の功績

田村先生の思い出

綱要導師の宗学意識

三友健容

浅井円道

渡邊寶陽

田辺ジョージ

町田是正

江戸城大奥女性の法華信仰

―身延山久遠寺の江戸出開帳を中心に―

儒・外・内三道論について

法華經成立論史(その五)

ロシアとギリシア正教

入菩提行論細疏 第九章試訳(2)

Doctorine of Karma in Buddhism and Jainism

タティア・ナートウマル

# 第一四七号 平成二(一九九〇)年十二月

日蓮聖人における教観について

打鼓群行禁止令をめぐって

―明治初期における宗教統制の一齣―

法華經成立論史(その六)

入菩提行論細疏 第九章試訳(4)

Miyazawa Kenji: Poet of the Lotus Sutra

―Religion in his literature―

# 第一四八号 平成四(一九九二)年三月

文部省統計数理研究所の「三大秘法稟承事」

真作説に対する疑義

小川泰堂の撰受・折伏論 ―「撰折弁惑論」

にみる自行折伏の修行―

望月真澄

日比宣俊

伊藤瑞叡

木崎良平

塚田貫康

庵谷行亨

浜島典彦

伊藤瑞叡

塚田貫康

渡邊寶陽

冠賢一

石川教張

「昭和日蓮不敬事件」について

「良医治子の喩」考(上) — 内容の把握 —

天晴地明考

ジュニャーナミトラ著『般若心経解説』試訳

房総里見家末裔の法華改宗と里見家改易の裏面史

裏面史

『日乗上人日記』にみる食膳の様相

「日興上人遺告」について

— 大聖御書と字たるへきことを中心に —

提婆品の現代釈私案

天台止観より見たる「読誦・唱題行」の位置づけ

— 修行の実証的な理解を前提として —

南無妙法蓮華経の現代的解兌

五大部と法華取要抄を一貫して大聖人の聖意を拝す

入菩薩行論細疏第九章試訳(5)

三大秘法稟承事の計量文献学的新研究

— クラスタ分析による真偽判定 —

— 本研究に対する批判疑義をも消通する —

— 伊藤瑞叡

## 第一四九号 平成五(一九九三)年三月

近代日蓮宗の子弟教育について

— 日蓮宗寺院をめぐって —

大崎学報総目録

青海省チベット仏教寺院の現状について

— 西寧市・東海地区を中心にして —

法華経成立史論(その七)

史料紹介 安永九年刊『みのぶ山ひとり案内』

入菩薩行論細疏第九章試訳(6)

新羅花郎研究序説

## 第一五〇記念号 平成六(一九九四)年三月

日蓮所引の経文をめぐって — 「心の師となる

とも、心を師とせざれ」の周辺 —

身延山から弟子に与えられた日蓮聖人の遺文

について(1) — 文永・建治年間を中心として —

日蓮教学における「不孝」の罪について

— 倫理と宗教の接点をめぐる問題 —

日蓮聖人遺文における御講聞書の位置

日蓮聖人の治病と食に関する考察

日持上人の海外伝道

— 宣化出土遺品とその科学的年代測定 —

日蓮の華夷意識

「日蓮宗抹殺建白書」をめぐって

江戸城大奥女性の稻荷信仰

— 江戸法養寺の熊谷稻荷を中心に —

小野文瑠

荻谷定彦

芹沢泰寛

望月海慧

内藤潮洲

目黒きよ

菅原関道

服部即明

影山教俊

柴田錬司

早瀬公人

塚田貫康

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

伊藤瑞叡

則武海源

伊藤瑞叡

北沢光昭

塚田貫康

福士慈稔

今成元昭

上田本昌

原慎定

中條暁秀

目黒きよ

三友量順

佐々木馨

小野文瑠

望月真澄

望月真澄

望月真澄

望月真澄

望月真澄

望月真澄

望月真澄

望月真澄

望月真澄

望月真澄

望月真澄

弁円『大日経見聞』における『法華経』の位置

づけ

法華経に見られる佛身観私論

法華経如来寿量品の解明

―「良医治子の喩」考(下)―

法華経成立論史(その八)

ガンダーラ彫刻にあらわれた竜神信仰

パサムジュサン記述の周辺

『タイッティリーヤ・ウパニシャッド』を読む

『中辺分別論』における三性説について

『アビダルマのともしび』第一章界品翻訳

研究(1)

マハーラーシュトラの仏教部派(5)

―kuda-Mahad 仏教碑銘―

### 第一五一号・糸久宝賢先生追悼号

平成七(一九九五)年三月

糸久宝賢先生年譜

糸久宝賢先生著述論文目録

糸久宝賢先生歎徳文

糸久宝賢先生弔辞

糸久宝賢先生弔辞

追悼

窪田哲正

望月海淑

荻谷定彦

伊藤瑞叡

高橋堯昭

矢崎正見

湯田豊

岩田諦静

三友健容

塚本啓祥

宇野恵照

渡邊玄正

渡邊寶陽

宮崎英修

糸久先生を偲んで

開目抄述作由来考

―「門下の疑念」を中心として―

日蓮遺文の日興筆写本の性格について

青海省チベット仏教寺院の現状についてⅡ

―黄南・果洛チベット族各自治州を中心にして―

円光日陣に於ける本迹論の一考察

―本門宗体一如と本門教即観の視座から―

Sutanipa-ta における ka-ya について

入菩薩行論疏 第九章試訳(7)

My Gurujee Rishho-Ankokuron and World Peace

Tatia Nathmal

日蓮聖人の遺文に見る南無妙法蓮華経の五字と

七字について

日蓮聖人の「鏡」の思想

―日本思想史的考察における試論―

真間弘法寺の諸尊像

―新紹介の一尊四士四天像をめぐる―

『釈迦譜』引用經典に関する一考察

入菩提行論細疏第九章試訳(8)

三友健容

庵谷行亨

寺尾英智

則武海源

光林義高

池上要靖

塚田貫康

米田淳雄

三輪是法

山田泰弘

菅野竜清

塚田貫康

第一五二号 平成八(一九九六)年三月

日蓮聖人の遺文に見る南無妙法蓮華経の五字と

七字について

日蓮聖人の「鏡」の思想

―日本思想史的考察における試論―

真間弘法寺の諸尊像

―新紹介の一尊四士四天像をめぐる―

『釈迦譜』引用經典に関する一考察

入菩提行論細疏第九章試訳(8)

三友健容

庵谷行亨

寺尾英智

則武海源

光林義高

池上要靖

第一五三号 平成九(一九九七)年三月

ムンダガ・ウパニシャッド

― 翻訳および解説 ―

日蓮聖人の上行自覚について

豊饒の女神とクシヤン朝の社会

入菩提行論細疏 第九章試訳(9)

湯田 豊  
庵谷 行亨  
高橋 堯英  
塚田 貫康

第一五四号・野村耀昌先生・

宮崎英修先生追悼号

平成一〇(一九九八)年三月

野村耀昌先生年譜

野村耀昌先生著述論文目録

宮崎英修先生年譜

宮崎英修先生著述論文目録

野村耀昌先生歎徳文

宮崎英修先生歎徳文

『法華取要抄』の草案について

日蓮聖人の歴史叙述に関する編年的考察

― 日本史を中心として ―

藤原氏とキツネ

第五〇回日蓮宗教学研究発表大会

パネルディスカッション要旨

坂輪 宣敬  
田中 日淳  
都守 基一  
高森 大乗  
中村 禎里

日蓮教学研究の現状と展望  
日蓮教学研究の現状と展望

本門寿量品を中心として

日蓮大士の信仰伝達、継承のための試み

Buddhism, Taoism and Mid-Tang Politics

第一五五号 平成一一(一九九九)年三月

中世日蓮教団の成立とその基礎

日蓮の女人成仏法門について

― 法華経提婆品の龍女成仏を中心に ―

『本尊抄』における「初」・「始」の字について

(そのI)

日昭上人伝研究の一考察 ― 名瀬妙法寺蔵墨筆

古本玉沢手鑑を手掛りとして ―

『法華経』にみる福祉の背景思想について(試論)

― 森永松信の『法華経』理解を拠所として ―

京都法華宗寺院と天文法難

中世伊豆国日蓮教団の展開

桂地蔵事件と中世衆庶信仰

姚氏と仏教

ディーパンカラシュリージュニャーナの

『菩提道灯論細疏』和訳(2)

入菩提行論細疏 第九章試訳(10)

上田 本昌  
大平 宏龍  
鈴木 正厳  
福岡 日雙  
手島 一真  
宮崎 英修  
石川 教張  
片岡 邦雄  
久住 謙是  
清水 海隆  
坂輪 宣政  
池谷 真敬  
中村 禎里  
菅野 龍清  
望月 海慧  
塚田 貫康

第一五六号 平成二二(二〇〇〇)年三月

天台智顗・妙楽湛然両師における本仏觀の一側面

田村完爾

覚超撰とされる觀心義文献『私用心』について窪田哲正

『本尊抄』における「初」・「始」の字について

(そのⅡ)

片岡邦雄

六字經法とキツネ

中村禎里

原愼定著『日蓮教学における罪の研究』

丸茂湛祥

入菩提行論細疏 第九章試訳(1)

塚田貫康

第一五七号・茂田井教亨先生追悼号

平成二三(二〇〇一)年三月

茂田井教亨先生年譜

茂田井教亨先生著述目録

茂田井教亨先生歎徳文

茂田井教亨先生弔辞

茂田井先生を偲ぶ

茂田井教亨先生を偲ぶ

茂田井教亨先生を悼む

茂田井教亨先生の思い出

無縁の縁者として

ご鴻恩に深謝

藤井日光  
三友健容  
勝呂信静  
浅井圓道  
渡邊寶陽  
仲澤浩祐  
伊藤瑞叡  
庵谷行亨

日蓮聖人の『立正安国論』と『三教指帰』

北川前肇

龍口法難における日蓮聖人の方人考

―大学三郎と比企谷について―

石川修道

六字經法の本尊について

中村禎里

北朝摩崖刻經と經文の簡約化

―選択から結要へ―

桐谷征一

第一五八号 平成二四(二〇〇二)年三月

北齊大沙門安道壹の刻經事跡

桐谷征一

天台大師智顗における「一大事因縁」受容の一考察

嘉祥大師の中道仏性

田村完爾

The Treatise on the Four Stages of Faith and Five Stages of Practice

日比宣俊

入菩提行論細第九章試訳(3)

福岡良樹

塚田貫康